

岐阜県文化財保護センター
調査報告書 第118集

深渡 A 地点 遺跡 II

2011

岐阜県文化財保護センター

ふか
深 渡 A 地 点 遺 跡 II

2011

岐阜県文化財保護センター



深渡A地点遺跡全景（北東から）



深渡A地点遺跡全景（南から）

序

美濃加茂市は、岐阜県の中央南部に位置し、木曽川と飛騨川が合流する開けた盆地にあります。古くから木曽川運材の中継地点として重要な役割を担ってきました。また、市内には中山道が通り、太田は宿場町として栄えていました。現在でも、鉄道や国道などの幹線交通路が集結し、交通の要衝として知られています。

このたび、岐阜県農政部可茂農林事務所による県営一般農道整備事業に伴い、美濃加茂市下米田町にある深渡A地点遺跡の発掘調査を実施しました。深渡A地点遺跡は縄文時代から近世にかけての遺物が見つかっている遺跡です。本報告書は今年度実施した調査成果をまとめたもので、深渡A地点遺跡としては2冊目の調査報告書となります。

今回の調査では、溝跡、土坑、集石遺構といった中世の遺構を確認するとともに、山茶碗、古瀬戸などの陶磁器類からは当時の人々の暮らししづりをうかがうことができます。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、美濃加茂市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成23年3月

岐阜県文化財保護センター
所長 高橋 照美

例　言

- 1 本書は、岐阜県美濃加茂市下米田町大字西脇字廣末に所在する深渡A地点遺跡(岐阜県遺跡番号21211-04435)の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、県営一般農道整備(牧野地区)事業に伴うもので、岐阜県農政部可茂農林事務所から岐阜県教育委員会が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、平成22年度に岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 発掘調査及び整理作業の担当は、本書第1章第2節に一括掲載した。
- 4 本書の執筆及び編集は澤村雄一郎が行った。
- 5 発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの業務は、株式会社興栄コンサルタントに委託して行った。
- 6 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 7 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表す次第である。(敬称略・五十音順)
可児光生、高橋健太郎、藤村俊　岐阜県教育委員会
- 8 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第VII系を使用する。
- 9 土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄2006『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社)による。
- 10 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目 次

序

例言

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の方法と経過	3
第2章 遺跡の環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	10
第1節 基本層序	10
第2節 遺構・遺物の概要	11
第3節 北区の遺構と遺物	13
第4節 南区の遺構と遺物	20
第4章 総括	39
参考文献	42
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 遺跡の位置	1	第14図 南区出土の遺物	23
第2図 試掘確認調査設定位図	2	第15図 調査区全体図(北区)	26
第3図 調査区・グリッド設定図	4	第16図 調査区全体図(南区)	27
第4図 美濃加茂市の河岸段丘	6	第17図 調査区分割図1	28
第5図 深渡A地点遺跡周辺の遺跡	9	第18図 調査区分割図2	29
第6図 基本層序	10	第19図 調査区分割図3	30
第7図 遺構断面形状分類図	12	第20図 調査区分割図4	31
第8図 北区の遺構(1)・溝跡(SD4)	15	第21図 調査区分割図5	32
第9図 北区の遺構(2)・溝跡(SD7)	16	第22図 調査区分割図6	33
第10図 北区の遺構(3)・溝跡(SD1-2-9)・土坑(SK3)	17	第23図 調査区分割図7	34
第11図 北区出土の遺物	18	第24図 調査地周辺の地割り状況	40
第12図 南区の遺構(1)・溝跡(SD17-18-19)・土坑(SK9)	21	第25図 調査区付近の地割り状況	41
第13図 南区の遺構(2)・土坑(SK2-6-101-106)・ 集石遺跡(1~4))	22		

表目次

第1表 深渡A地点遺跡試掘・確認調査結果	2	第7表 土器観察表(1)掲載遺物	37
第2表 周辺遺跡一覧表	8	第8表 打製石斧観察表	37
第3表 基本層序対応表	11	第9表 MF観察表	37
第4表 遺物出土点数	13	第10表 土器観察表(2)未掲載遺物	38
第5表 遺構一覧表(1)	35	第11表 グリッド別出土点数	39
第6表 遺構一覧表(2)	36		

写真図版目次

巻頭図版

深渡A地点遺跡全景(北東から)
深渡A地点遺跡全景(南から)

巻末図版

図版 1
北区全景(西から)
南区全景(西から)

図版 2

北区調査前風景(北から)
南区調査前風景(東から)
SD4検出状況(北東から)
SD4山茶碗出土状況(北から)
SD4完掘(北東から)
SD2(西から)
SD9(右側、北西から)

SK35(南から)

図版 3
SD17-18-19(東から)
SD17-18-19(北から)
SD17-18-19(南から)
SD17-18-19検出状況(東から)
SD17-18-19埋土断面(西から)

図版 4

SK91(東から)
SK66(右側、南から)
SI1(西から)
SI2(南東から)
南区出土遺物

図版 5

北区出土遺物

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

深渡A地点遺跡は、美濃加茂市下米田町西脇に所在する。今回の発掘調査は、岐阜県農政部可茂農林事務所による県営一般農道整備事業に伴い実施したものである。

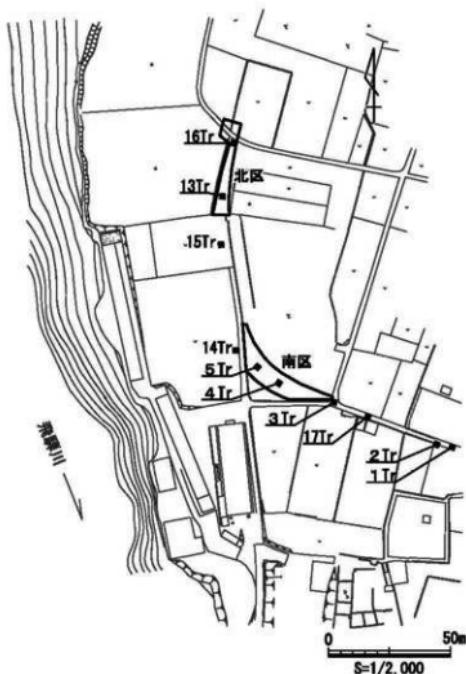
県営一般農道整備事業は、飛驒川左岸の下米田町西脇地区の畠地を南北に貫く農道を整備する事業である。事業に先立って岐阜県農政部可茂農林事務所では岐阜県教育委員会に対して開拓事業計画地における埋蔵文化財包蔵地の有無の照会を行った。岐阜県教育委員会で遺跡地図や遺跡台帳等の照合を行った結果、事業地内に周知の埋蔵文化財包蔵地である深渡A地点遺跡が所在する事を確認した。平成10年度、美濃加茂市教育委員会により試掘・確認調査が行われた。調査の結果、遺物包含層が確認され、弥生土器、須恵器、山茶碗、中近世陶器などが出土した。これを受け平成14年度に財団法人岐阜県文化財保護センター（現岐阜県文化財保護センター）が1,400m²の本発掘調査を実施した。

その後、事業の進捗に伴って、平成21年度に美濃加茂市文化振興課により開拓事業予定地に新たな試掘地点を設定し、試掘・確認調査が行われた。調査の結果、遺物包含層及び土坑が確認され、弥生土器、土師器、山茶碗、中近世陶器などが出土した。平成10年度及び21年度の試掘・確認調査の結果は第2図、第1表のとおりである。これらの結果を踏まえて、平成21年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会を開催し、深渡A地点遺跡611.3m²の本発掘調査が必要であると判断した。

発掘調査は、平成22年7月1日、8月10日に文化財保護法第99条による埋蔵文化財発掘調査の報告（文財セ第61,84号）を岐阜県教育委員会に提出し、7月8日、8月18日に岐阜県教育委員会より埋蔵



第1図 遺跡の位置(国土地理院発行の2万5千分の1地形図「美濃加茂」を使用した。)



第2図 試掘・確認調査設定位置図

第1表 深度A地点遺跡試掘・確認調査結果(平成22年度調査開通)

年度	トレンチ番号	検出構造、堆積状況	出土遺物
10	1tr	なし	なし
	2tr	なし	なし
	3tr	土坑2基	山茶碗2
	4tr	地山直上に安定した土壤化層	近世陶器1
	5tr	土坑2基、地山直上に安定した土壤化層	弥生土器1、山茶碗2
21	13tr	なし	弥生土器~土師器3、山茶碗13、土師皿4、擂鉢2、近世陶器9
	14tr	なし	土師質土器1、近代染付1
	15tr	なし	山茶碗2、鼠志野丸皿1
	16tr	土坑1基、地山直上に安定した土壤化層	なし
	17tr	地山直上に安定した土壤化層	擂鉢1、土師皿1

文化財発掘調査の報告についての通知(社文第38号の18, 19)を受けて、平成22年度に岐阜県文化財保護センターが実施した。なお、文化財保護法第99条による埋蔵文化財発掘調査の報告は2度の提出となっている。これは99条提出後、調査途中に事業者による用地買収に日途が立ち、調査範囲に追加箇所が生じたため追加箇所についての99条を別途提出した。

第2節 調査の方法と経過

1 調査の方法

当初、611.3m²の本発掘調査を行う計画であったが、調査途中で北区において15.3m²の追加調査を行うこととなり、最終調査面積は626.6m²となった。

調査区の設定 調査区画は、世界測地系座標を基に100m×100mの大グリッド、西から東へA・B大グリッド、A・B大グリッドの南側に西から東へC・D大グリッドを設定した。今回の調査においてB・D大グリッドは調査区外となるが、遺跡範囲を考慮し、設定した。この大グリッドを分割して5m×5mのグリッドを設定し、北から南へAからT、西から東へ1から20とし、それらを組み合わせ、さらに大グリッド名を頭に冠してグリッド名とした。なお、平成14年度の調査においては、日本測地系座標によりグリッドを設定した。このため、グリッドの軸線は異なっており、グリッド名についても本発掘調査に当たり新規に設定した(第3図)。

掘削作業 表土を重機により除去した後、遺物包含層(以下「包含層」と略称)の掘削、遺構検出、遺構剥離をジョレン・ねじり鎌などを用いて人力で行った。遺構番号は、検出順に通番とし、平成14年度調査と重複しないよう401から番号を与え、遺構の性格を想定した記号を組み合わせて表した。この番号は二次整理作業時に遺構種別ごとに振り替えたが、本書の「遺構一覧表」に「登録番号」として記載している。

遺構平面図・断面図 個別遺構の調査に当たっては、デジタル遺構実測システムにより平面図を作成し、断面図は、手測り実測した図面をスキャニングによりデジタル化して作成した。

調査区全体図 遺構の検出過程で、遺構の配置と切り合い関係を示す遺構全体配置図は、電子平板システムを用いて作成した。調査区全体図は、個別遺構の平面図を合成して作成した。

写真撮影 1眼レフ35mmカメラ(リバーサルフィルム、モノクロフィルム)、中判カメラ(リバーサルフィルム、モノクロフィルム)、デジタルカメラで撮影した。遺跡の景観写真は、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影による。

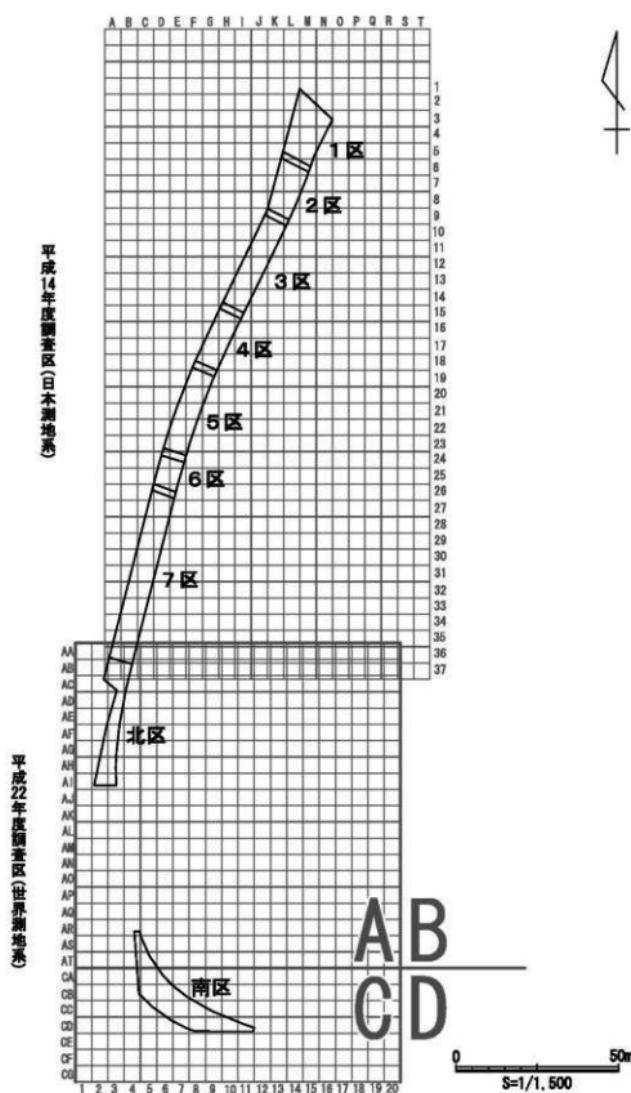
遺物取り上げ 包含層、遺構出土遺物とも原則として出土位置を三次元座標の測定を行った上、取り上げた。

2 調査の経過

現地での調査経過は次のとおりである。

第1週(6/28～7/2) 28日、重機による表土掘削開始。30日、表土掘削終了。2日、人力掘削開始。

第2・3週(7/5～7/16) 5日、北区遺構検出、検出写真撮影及び略測図作成開始。北区・南区排水溝を兼ねた基本層序検討用トレンチ掘削及び壁面清掃開始。7日、可茂農林事務所と北区追加調査



第3図 調査区・グリッド設定図

に関する協議。8日、北区遺構検出及び検出写真撮影終了。9日、南区遺構検出、検出写真撮影及び略測図作成開始、北区略測図作成終了。16日、トレーナー掘削終了。

第4週(7/20～7/23) 21日、南区遺構検出及び検出写真撮影終了。23日、北区遺構掘削開始。27日、南区略測図作成終了。

第5週(7/26～7/30) 27日、北区遺構実測開始。

第6・7週(8/2～8/10) 2日、南区遺構掘削開始。5日、北区追加調査分人力による表土掘削、遺構検出、略測図作成(同日終了)。

第8・9週(8/18～8/27) 19日、可児光生氏、藤村俊氏(美濃加茂市文化振興課)による現地指導。26日、空中写真撮影。

第10週(8/30～8/31) 31日、北区南区遺構掘削、遺構実測、写真撮影終了、可茂農林事務所へ現場引渡し、撤収作業完了。

現場作業終了後、出土遺物の一次整理、二次整理作業及び報告書作成作業は岐阜県文化財保護センターにおいて行った。発掘調査から整理作業までの体制は次のとおりである。

発掘調査及び整理作業の体制

センター所長	高橋照美
総務課長	長屋忠司
調査課長	小谷和彦
調査担当チーフ	早野壽人
担当調査員	澤村雄一郎
整理作業員	丹羽香、堀三恵、戸下賀代子



発掘調査の様子

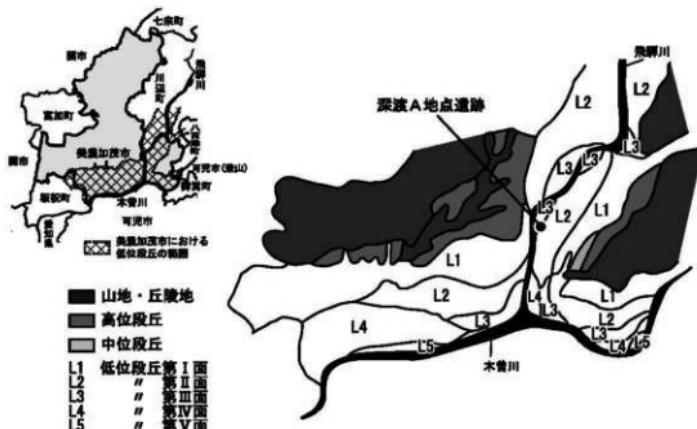
第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

深渡A地点遺跡の所在する美濃加茂市は、岐阜県の中央南部に位置し、東は加茂郡川辺町・八百津町・可児市(兼山)、北は関市・加茂郡七宗町、西は関市・加茂郡富加町・坂祝町、南は木曽川をはさんで可児市・可児郡御嵩町に接している。市内を南北に貫いて流れる飛騨川は、市の南端で木曽川と合流している。木曽川運材の中継地点として中世以来重要な役割を担ってきた。また、市内には中山道が通り、太田は宿場町として栄えており、古くから交通の要衝として知られている。

市域北部は美濃山地の南端に位置して標高約300~500mの山地が発達し、急峻な地形も見られるが、南西に向かって次第に低くなっている。このため、市内における標高の最高地点は市の最北端部にある。中部では、標高140~240mの丘陵地(中部丘陵地)が広がる。この丘陵地も南西に向かって低くなっている。小さな谷が複雑に伸びている。東部から南部にかけては平坦な地形が広がり、飛騨川や木曽川に沿って、古木曽川や古飛騨川の堆積と浸食により形成された数段の典型的な河岸段丘が発達している。この美濃加茂市から可児市にかけて広がる河岸段丘は、美濃加茂盆地と呼ばれている。美濃加茂盆地の河岸段丘は、河床からの比高で古い順に高位段丘、中位段丘、低位段丘に分けられる。低位段丘は地形からさらに5段(L1~L5の5面)に分けることができる(第4図)。

当遺跡は、飛騨川左岸に広がる低位段丘上のL2面上に位置する。今回の調査地点は、L2面とL3面の境界付近で遺跡西側は一段下がりL3面となっている。遺跡周辺は非常に水捌けがよいことから水田には適さず、主に畠地として利用されている。



第4図 美濃加茂市の河岸段丘
(美濃加茂市教育委員会編1994『大地の生い立ち美濃加茂』をもとに作成)

地質をみると、北部地域には約2億年前の地層でできた美濃帯中生層(砂岩、泥岩、チャート、混在岩)が分布する。このうち混在岩の中に取り込まれた石灰岩はかつて石灰の原料として採掘されたことがある。

中部丘陵地には約2,300万年前の火山活動で陥没してできた新生代新第三紀中新世の瑞浪層群蜂屋累層(溶岩、火山碎屑岩、凝灰角礫岩、火山角礫岩)が分布している。凝灰角礫岩には、樹木が二酸化炭素に置き換わってできた珪化木が見られる。山之上町金谷にある巨大な珪化木は岐阜県の天然記念物に指定されている。また、中部丘陵地南端部では新第三紀中新世の瑞浪層群中村累層(砂岩、泥岩、礫岩、亜炭、凝灰岩)、瑞浪層群平牧累層(凝灰角礫岩、礫岩、砂岩、凝灰岩、凝灰岩質砂岩)や、400万年前東海湖へ流れ込む大河川に堆積した新第三紀鮮新世の瀬戸層群土岐砂礫層などが分布する。なお、中村累層の亜炭層は御嵩町などに分布する亜炭層と同じ地層で、かつては燃料用に採掘されたことがある。

美濃加茂盆地の河岸段丘は、河床からの比高で古い順に高位段丘、中位段丘、低位段丘に分けられる。高位段丘は、上野地区に広がる約30万年前に造られた上野面で、風化が進んだ赤褐色のクサリ礫層になっている。中位段丘は、加茂野地区に広がる約5万年前までに造られた加茂野面で、御嶽火山が噴出した軽石を含む礫層(木曾谷層)や木曾川泥流堆積物が堆積している。低位段丘は飛騨川や木曾川沿いの下米田、古井、太田地区に広がり、約3万年前以降に堆積した礫層とわずかの砂層で形成されている。

第2節 歴史的環境

美濃加茂市から可児市にかけての美濃加茂盆地では、前述の通り飛騨川及び木曾川によって形成された河岸段丘が発達している。この河岸段丘上には多くの遺跡が分布している。当遺跡の所在する低位段丘上の遺跡を中心に時代順に概要を述べる。

旧石器時代では、川合遺跡(57)においてナイフ形石器、彫器などが出土している。この他美濃加茂市内では、尾崎遺跡、北野遺跡、市橋北野遺跡(いずれも第5図の範囲外)などでナイフ形石器、細石刃などが確認されている。

縄文時代の遺跡は、宮田清友遺跡(9)、牧野小山遺跡(25)などがあげられる。宮田清友遺跡では縄文時代早期の竪穴住居跡や煙道付炉穴を確認している。また、牧野小山遺跡では早期から晩期の遺物を確認しているが、中期後半が主体をなす。

弥生時代の遺跡は、野笠遺跡(37)、藤田坂遺跡(79)、為岡遺跡(92)などがあげられる。野笠遺跡では遠賀川式の壺形土器が出土している。藤田坂遺跡では弥生中期後半の竪穴住居跡3軒、据立柱建物跡8棟を確認し、台付き細頸壺が出土している。為岡遺跡では14基の方形周溝墓が確認されているが、周辺で住居跡は確認されず、墓域を形成していたと考えられる。

古墳時代については、古墳では稻荷塚古墳(8)、長塚古墳(76)、野中古墳(73)、西寺山古墳(76)などがあげられる。稻荷塚古墳は当遺跡の北東約0.75kmに所在し、この地区における中核的な古墳であると考えられている。また、長塚古墳、野中古墳、西寺山古墳は「前波の三ツ塚」と呼ばれ、東濃地区を代表する前期古墳群である。なかでも長塚古墳は東濃地区最大の前方後円墳で、国史跡に指定さ

れている。

古墳時代から古代にかけて営まれた集落跡として、今遺跡(18)、牧野小山遺跡、針田遺跡(5)などがあげられる。今遺跡では古墳時代後期から奈良時代にかけての堅穴住居跡37軒が確認されている。牧野小山遺跡では4世紀末～9世紀の堅穴住居跡39軒、掘立柱建物跡3棟を確認している。また、土師器甕は各時期を通して出土し、変遷をたどることのできる良好な資料である。針田遺跡では古墳から平安時代の堅穴住居跡50軒を確認し、堅穴住居跡を中心に500点近い製塙土器が出土している。

中世以降の遺跡では、当遺跡(1)のほか為岡遺跡、牧野小山遺跡、野佐遺跡などがあげられる。当遺跡では平成14年度の本発掘調査において、中世の屋敷区画溝を確認している。為岡遺跡では14世紀の鍛冶関連構造や中世以降と推定される土坑群が確認されている。牧野小山遺跡では、土坑墓・配石墓11基のほか8箇所の溝による区画を確認している。野佐遺跡では敷石・配石による堀、取水施設を伴う大溝を確認している。また、掘立柱建物跡3棟、方形土坑なども確認している。

第2表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	栗原A地点遺跡	縄文、弥生、中世～近代	47	西野遺跡	古墳
2	栗原B地点遺跡	弥生	48	青木神社前遺跡	縄文
3	栗原C地点遺跡	弥生	49	宮之島古墳群	古墳
4	栗原D地点遺跡	弥生	50	川合宮之島遺跡	縄文～中世
5	針田遺跡	縄文～中世	51	宮之島東遺跡	古墳、古代、中世
6	東坪之内遺跡	弥生、古墳、中世	52	次郎兵衛塚古墳群	古墳
7	田中遺跡	弥生、古墳、中世	53	川合新荷塚1号古墳	古墳
8	鷲荷塚古墳	古墳	54	川合新荷塚2号古墳	古墳
9	宮田井田遺跡	縄文、弥生、古墳、中世	55	川合新荷塚3号古墳	古墳
10	中里敷古墳	古墳	56	次郎兵衛塚1号墳	古墳
11	剛光遺跡	縄文、弥生	57	川合遺跡	旧石器、縄文、弥生、古墳
12	牛ヶ鼻春藤	中世	58	東畠古墳	古墳
13	下り瀬跡	縄文～近世	59	東野遺跡	縄文、弥生、古墳
14	長坂北遺跡	古墳	60	鶴賀古墳	古墳
15	長坂遺跡	弥生	61	見焼古墳群	古墳
16	長坂古墳	古墳	62	南畠古墳	古墳
17	小山篠音北遺跡	弥生	63	南畠遺跡	中世、近世
18	今遺跡	縄文、古代	64	上原土塁跡	中世
19	坂下1号古墳	古墳	65	上原土塁跡古窯跡	古代
20	坂下2号古墳	古墳	66	桐野1号古墳	古墳
21	鳳鳴御跡	中世	67	桐野2号古墳	古墳
22	廻間1号古墳	古墳	68	上原新荷塚古墳	古墳
23	廻間2号古墳	古墳	69	山神古墳	古墳
24	下牧野古墳	古墳	70	可見工業高岡南遺跡	縄文、中世
25	牧野小山遺跡	縄文～中世	71	西野新荷塚古墳	古墳
26	咲大桑原遺跡	縄文	72	中恵土新屋敷遺跡	縄文
27	白山山頂古墳群	古墳	73	野中古墳	古墳
28	白山古墳	古墳	74	野中西古墳	古墳
29	火曜古墳	古墳	75	長榮古墳	古墳
30	トヤノ下古墳	古墳	76	西寺山古墳	古墳
31	小貝戸2号古墳	古墳	77	矢之下遺跡	縄文～中世
32	小貝戸遺跡	縄文、弥生	78	村出古墳	古墳
33	神明遺跡	縄文、弥生	79	藤田坂遺跡	縄文、弥生
34	花之下遺跡	古代、中世	80	鳥子更良跡	縄文
35	切通遺跡	弥生、古墳	81	猿野原遺跡	近世
36	川合東遺跡	弥生	82	大歓古墳	古墳
37	野佐遺跡	縄文～中世	83	佐口遺跡	古墳、古代、中世
38	赤池4号古墳	古墳	84	木ノ下遺跡	古代、中世
39	亀湖古墳	古墳	85	元津尾寺跡	近世
40	赤池古墳群	古墳	86	小磯出遺跡	縄文、古代
41	川合川崎遺跡	縄文、弥生、古墳	87	高山代官所下川辺役所跡	近世
42	川合西古墳群	古墳	88	天池古墳	古墳
43	川合二ツ塚遺跡	縄文	89	光輪寺北遺跡	弥生
44	川合西遺跡	弥生	90	光輪寺古墳	古墳
45	今波遺跡	縄文～中世	91	原後五輪塔	中世
46	今波金屋遺跡	近世	92	為岡遺跡	縄文～中世

(国土地籍測量の2万5千分の1地図用「実測地図」を用いた、道路の位置や形状を測量する方法を示す手順図です。)

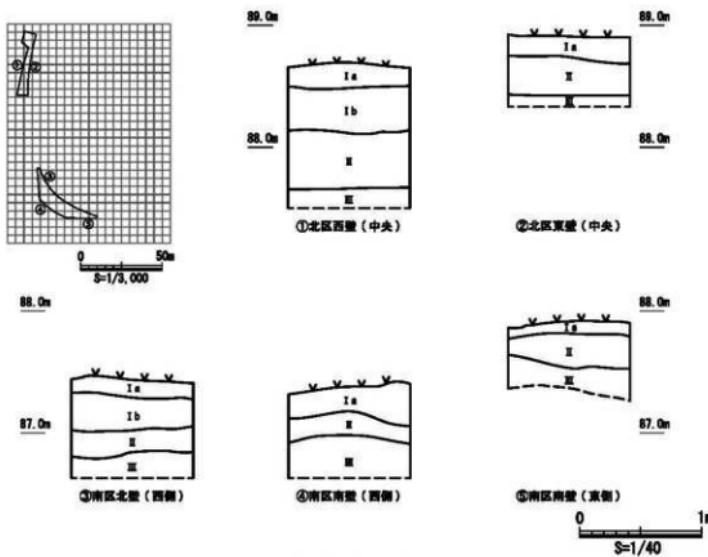


第3章 調査の成果

第1節 基本層序

当遺跡は、飛騨川が形成する河岸段丘上に位置する。現耕作面は段丘上の平坦面であるものの、東から西(飛騨川方面)へ、そして北から南(木曾川方面)へ向かって緩傾斜地となっている。調査区周辺は畑地として利用されており、人為的な削平を受けている部分が認められるが、地山面も西側及び南側へ向かって低くなっている。今回の調査地点は段丘の端部に当たり、北区においては地山面で約50cmほどの段差が認められ、調査区北部及び東部が高位の平坦面となっている。調査区北部の高位平坦面は、前回調査区へと続く。また、東部の高位平坦面はより遺跡の中心部分に広がっていくものと考えられる。南区においては北区のような明瞭な段差は認められないが、東から西、北から南へ向かって緩やかに低く傾斜している。

基本層序は、I層からIII層に分層した。平成14年度調査ではI層からIII層に分層しており、色調などに違いはあるものの、基本的に対応した堆積状況となっている。前回調査では確認していない盛土層に関しては、当調査で現代の耕作地拡幅に伴う盛土層とらえ、I層と関連づけて細分した(第3表)。なお、前回調査同様遺構はIII層上面で検出している。



第6図 基本層序

第3表 基本層序対応表

平成22年度		平成14年度		性格
層位	土質等	層位	土質等	
I a層	砂質シルト(にぶい黄褐色、10YR5/4)	I層	砂質土(黒褐色、10YR3/2)	現代耕作土
I b層	砂質シルト(にぶい黄橙色、10YR6/4)	—	—	盛土
II層	砂質シルト(暗褐色、10YR3/3)	II層	砂質土(オリーブ褐色、2.5Y4/3)	遺物包含層
III層	砂質シルト(明黄褐色、10YR6/6)	III層	砂質土(黄褐色、2.5Y5/4)	地山

以下、基本層序のI層から順に説明する。

I a層(10YR 5 / 4 にぶい黄褐色土)：表土層

現代の畑の耕作土。砂質シルトでややしまっており、粘性もややある。

I b層(10YR 6 / 4 にぶい黄橙色土)：盛土層

北区西側及び南区北西側に限定的に認められる。地山面の標高が低い部分にのみ認められる。段丘段差の低い部分に盛土を行い、現耕作面をより広く活用するための盛土と考えられる。明治時代に作成された当遺跡が所在する廣末・中屋敷地区の地籍図によると、明治期の地境は現在と異なっている((財)岐阜県教育文化財団文化財保護センター2004、本報告書でも第4章に再掲)。このことから盛土は明治以降の施工と考えられる。なお、土層中にはビニール袋が混入しており、遺物はほとんど認められない。砂質シルトでややしまっており、粘性もややある。前回調査では、調査区の位置は平坦面上で段丘段差にはかからない。このため段差を埋めるために盛土を行う必要がなかったと考えられ、I b層に対応する盛土層は確認していない。

II層(10YR 3 / 3 暗褐色土)：遺物包含層

遺物包含層であるが、含まれる遺物は多くない。少ない包含遺物の中では中世後期に属する遺物の比率が高い。砂質シルトでややしまっており、粘性もややある。なお、前回調査時の遺物包含層(II層)は繩文時代から現代にかけての遺物を包含している。

III層(10YR 6 / 6 明黄褐色土)：段丘堆積層(地山)

飛騨川の段丘堆積層である。北区、南区とも調査区全面に堆積している。砂質シルトでややしまっており、粘性もややある。遺物は確認できず、地山層と考えられる。前回調査でも同様の堆積(III層)を地山としている。遺構はIII層上面で確認している。北区や南区の東側ではII層との境界が明瞭であるが、南区の西側では土壤化によりIII層との境界が不明瞭となっている。境界が明瞭な部分は人為的な削平を受けたものと考えられる。なお、南区、北区ともIII層上面から調査区東側で1m、西側で50cm程度下で径10~30cmの人頭大円礫を多く含む礫層となる。この礫層も飛騨川の段丘堆積層と考えられる。

第2節 遺構・遺物の概要

1 遺構の概要

今回の調査区は段丘崖にかかった遺跡の西端だったことから、建物跡など性格の明確な遺構は確認できなかった。また、確認した遺構の総数は136基で、内訳は土坑111基、溝跡21条、集石遺構4基である。前回の調査では、柵列・石列5箇所、溝跡33条、土坑87基、竪穴状遺構4箇所、小穴201基、

12 第3章 調査の成果

性格不明遺構1箇所を確認している。

北区は前回調査の7区と連続した調査区であるため、7区で確認した遺構と連続する遺構が存在する可能性を考慮していた。しかし、今回の調査でその統一が確認される可能性が最も高いと思われたS D32(14年度調査における遺構番号)に連続する遺構は確認できなかった。

今回の調査では遺物が出土しなかった遺構がほとんどであった。各遺構の概要は次のとおりである。

(1)溝跡(S D)

平面形が細長い溝状をなす遺構を溝跡とした。北区で9条、南区で12条を確認した。

(2)土坑(S K)

地面に掘られた穴全般を土坑とした。なお、溝跡及び集石遺構は除外している。北区で32基、南区で79基を確認した。

(3)集石遺構(S I)

下部土坑の存在(掘形の有無)にかかわらず、人為的に石を集積した遺構を集石遺構とした。南区で4基を確認した。

2 遺構一覧表について

(1)平面形状・底面形状

堀形の上端における形状を平面形状、下端における形状を底面形状とした。円形・梢円形を「a」、方形・長方形を「b」、それ以外の不定形などを「c」とした。

(2)堆積状況

単層のものを「a」、複層のものを「b」とした。

(3)断面形状

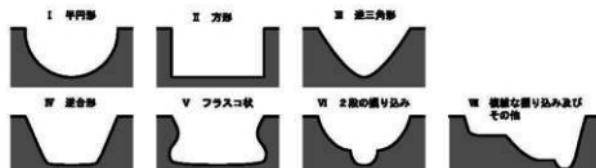
半円形を「I」、方形を「II」、逆三角形を「III」、逆台形を「IV」、フラスコ状を「V」、2段の掘り込みを「VI」、複雑な掘り込み及びその他を「VII」とした(第7図)。

(4)所属時期

原則として、遺構出土遺物のうち、最も新しい遺物の時期によって遺構の所属時期とした。

3 遺物の概要

深渡A地点遺跡で出土した遺物の総点数は73点である。出土遺物のうち、遺構内出土遺物が21点、包含層出土遺物が52点である。また、土器・陶磁器類71点、石器類2点で、土器・陶磁器類の内訳は、須恵器3点、土師器11点、灰釉陶器1点、山茶碗39点、古瀬戸4点、大窯2点、近世陶器7点、磁器



第7図 遺構断面形状分類図

第4表 遺物出土点数

出土 遺 物	出土区分								合 計		
	遺構内				包含層						
	北区	南区	小計	割合(%)	北区	南区	小計	割合(%)	点数	割合(%)	
土器	須恵器	1	0	1	1.37%	1	1	2	2.74%	3	4.11%
	土師器	1	6	7	9.59%	4	0	4	5.48%	11	15.07%
	灰釉陶器	0	0	0	0.00%	1	0	1	1.37%	1	1.37%
	・山茶碗	5	2	7	9.59%	30	2	32	43.84%	39	53.42%
	古瀬戸	1	2	3	4.11%	1	0	1	1.37%	4	5.48%
	大窯	0	0	0	0.00%	1	1	2	2.74%	2	2.74%
	近世陶器	0	0	0	0.00%	6	1	7	9.59%	7	9.59%
磁器類	磁器	0	0	0	0.00%	1	1	2	2.74%	2	2.74%
	瓦	1	1	2	2.74%	0	0	0	0.00%	2	2.74%
	合 計	9	12	21	28.77%	46	6	52	71.23%	73	100.00%

2点、瓦2点、石器の内訳は打製石斧1点、MF¹⁾1点である(第4表)。

前回の調査では、土器・陶磁器2,611点、土製品5点、石器・石製品165点、金属製品32点、錢貨7点、木製品14点が出土している。内訳をみると、土器陶磁器類では、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世土師皿、山茶碗、輸入磁器、古瀬戸、瀬戸美濃大窯、瀬戸美濃連房、常滑陶器、磁器、瓦器が、石器・石製品では、石核、円礫、R F、凹石、有肩瓦状石器、磨石、打欠石盤、スクレイバー、打製石斧、砥石、石臼などが出土している。

本書では、実測可能な個体についてすべて掲載した。掲載点数は73点中29点である。

注

1) マイクロフレイク。微細な剥離度の認められる剥片。

第3節 北区の遺構と遺物

1 検出した遺構と遺構内出土遺物

ここでは北区で検出した遺構のうち、遺物の出土した溝跡5条、土坑1基について報告する。また、遺構内出土遺物は北区で9点出土しており、その中で4点を図示している(第11図)。

(1)溝跡(S D)

S D 4(第8図、写真図版2)

位置・検出状況 調査区北部のAC 3グリッドで検出した。高位平坦面の段差の下側、低位面上で検出した。調査区北部の高位平坦面の周囲を北東から南西へ巡る。溝の北東側、南西側とともに調査区外へと続く。検出面では、こぶし大程度の川原石が面的に配されている状況を確認した。この配石から排水のための暗渠であったと考えられる。

形状と規模 長さ5.23m、幅約1m、深さ約0.15mである。断面形は不定型な部分も見られるがおおむね半円形を呈する。溝の勾配はほとんどないが、周囲の地形から高位平坦面の広がる北東から低位

14 第3章 調査の成果

段丘面の南西へ排水したものと考えられる。

出土遺物 配石の中から、古瀬戸瓶類(1)と山茶碗の碗(2)が出土している。古瀬戸瓶類は、内外面に灰釉が施される。山茶碗は大畠大洞4号窯式に比定される。

時期 出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

S D 7(第9図)

位置・検出状況 調査区南部のAH 2、AI 2グリッドで検出した。低位面上で検出した。溝の西側は調査区外へと続く。

形状と規模 長さ6.61m、幅約0.5m、深さ約0.2mである。断面形は逆台形を呈する。北西側が幅広くなっている。土坑状などの遺構と繋がっている可能性もある。溝の勾配はやや南に下がる。

出土遺物 山茶碗の碗1点、瓦片1点が出土している。山茶碗は大洞東1号窯式に比定される。瓦片は中世のものと思われる。

時期 出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

S D 1(第10図)

位置・検出状況 調査区北部のAB 3グリッドで検出した。高位面上で検出した。溝の北側は前回調査の7区へ続くが、7区の南端はトレンチとなっており、SD 1は7区では確認できない。

形状と規模 長さ2.35m、幅約0.59m、深さ約0.09mである。断面形は浅い皿状を呈する。

出土遺物 土師器の小片が出土している。

時期 不明。

S D 2(第10図、写真図版2)

位置・検出状況 調査区北部のAB 3グリッドで検出した。高位面上で検出した。溝の北側は前回調査の7区へ続くが、7区の南端はトレンチとなっており、SD 1は7区では確認できない。

形状と規模 長さ2.35m、幅約0.59m、深さ約0.09mである。断面形は方形を呈する。埋土は西側では単層であるが、東側では斜めに4層に分かれる。この堆積状況から、上面が削平を受けている可能性が考えられる。

出土遺物 須恵器の环身(4)の高台部分が出土している。

時期 出土遺物の時期から7~8世紀と考えられる。

S D 9(第10図、写真図版2)

位置・検出状況 調査区南部のAI 3グリッドで検出した。高位平坦面上で検出した。溝の南東側は調査区外へ続く。

形状と規模 長さ3.57m、幅約0.56m、深さ約0.06mである。断面形は方形を呈する。平面形はSD 7とよく似ており、南東側が幅広くなっている。溝の勾配は高位平坦面側の南東側がやや高く、段差に近い北西側がやや低くなっている。

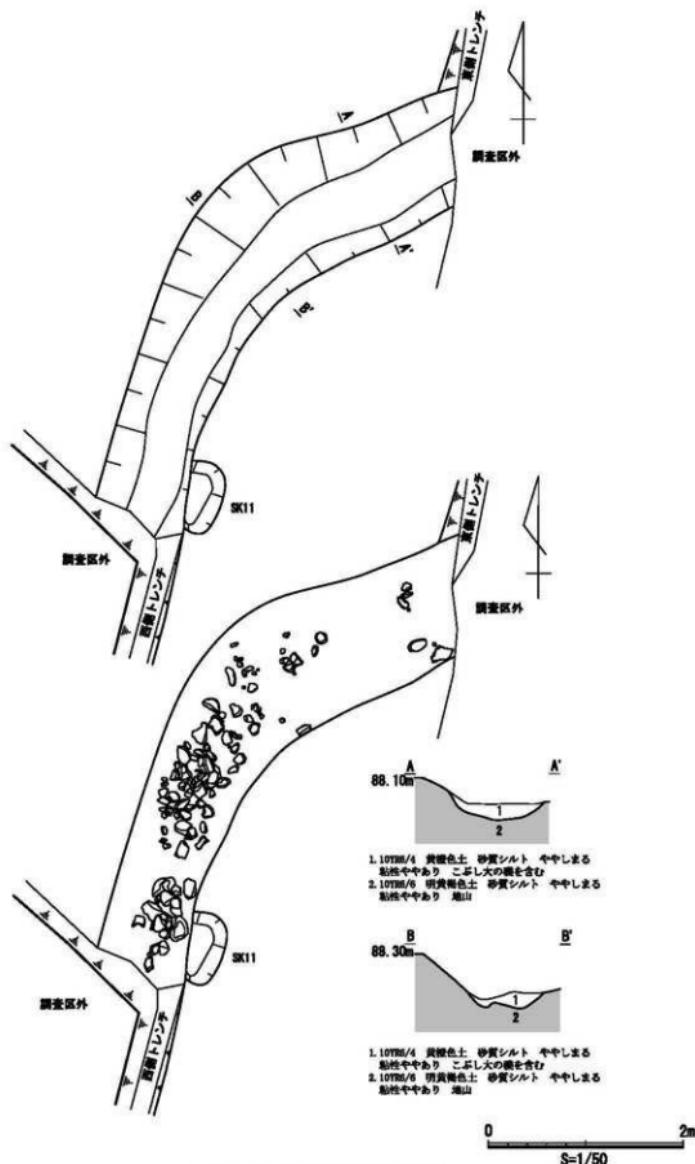
出土遺物 山茶碗の碗(3)が出土している。大谷洞14号窯式に比定される。

時期 出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

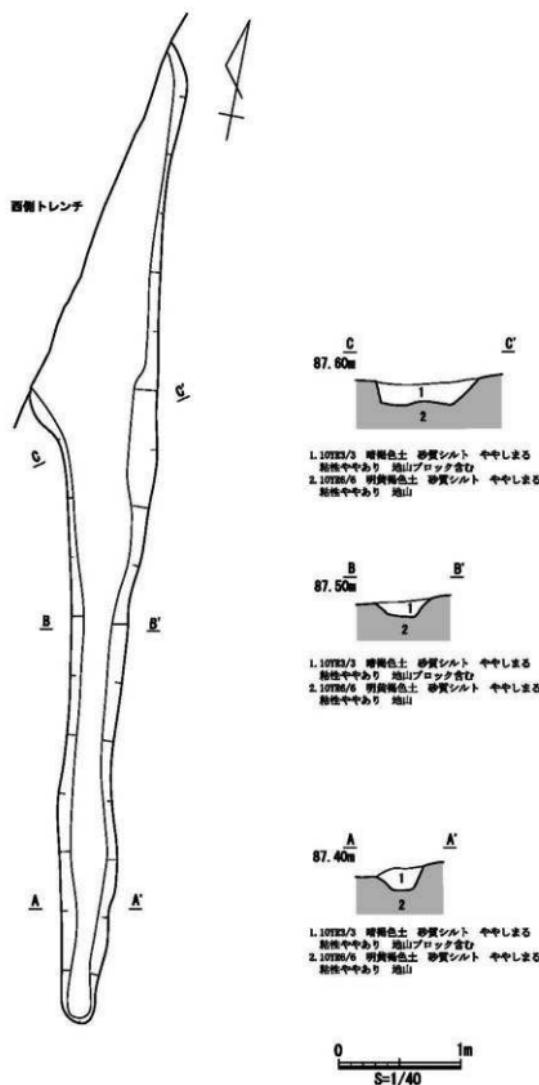
(2) 土坑(S K)

S K35(第10図、写真図版2)

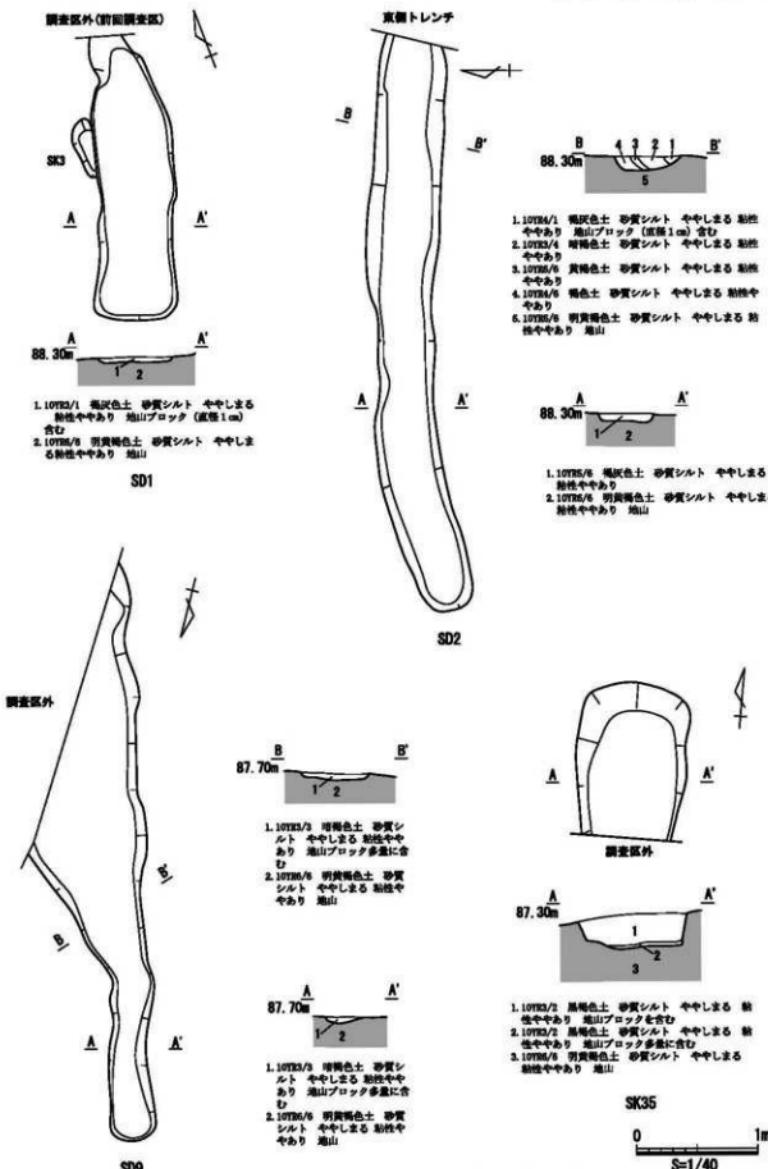
位置・検出状況 調査区南部のAI 2グリッドで検出した。高位面から低位面へと下がる段差中で検出



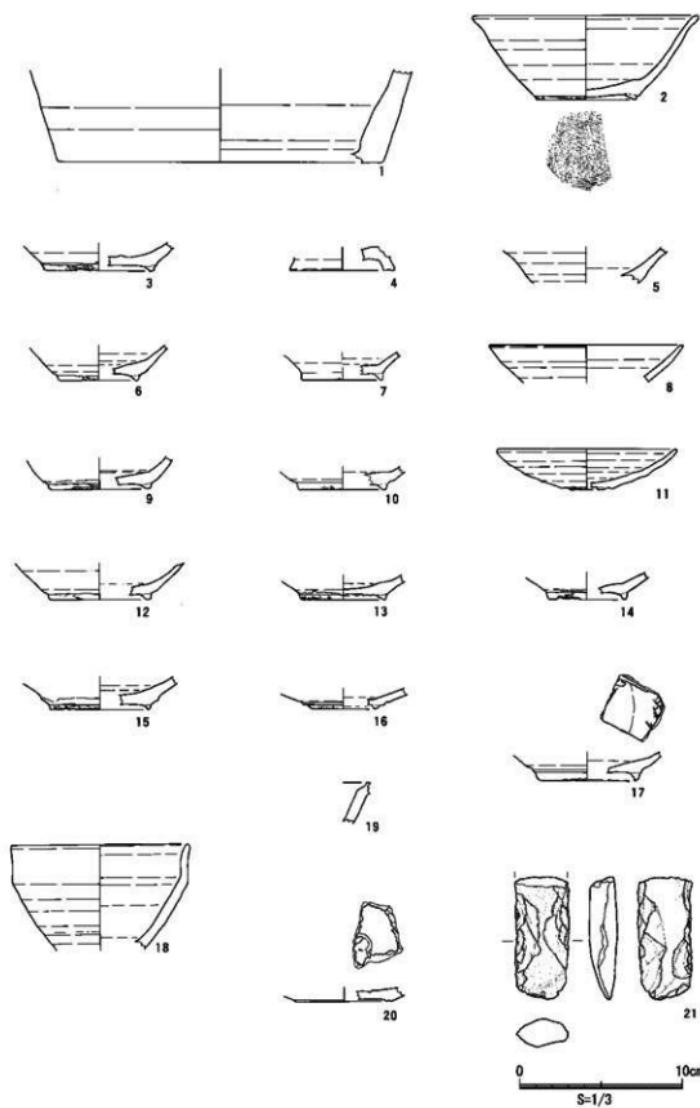
第8図 北区の造構(1)・溝跡(SD4)



第9図 北区の遺構(2)・溝跡(SD7)



第10図 北区の遺構(3)・溝跡(SD1・2・3)・土坑(SK35)



第11図 北区出土の遺物

した。斜面上に掘り込まれている。このため北側では掘り込みが明瞭であるが、南側では上端と下端の比高差がなくなっている。南側は調査区外に続くが、調査区外では地山の標高がさらに下がるため、南側では掘り込みは確認できないものと考えられる。

形状と規模 長軸1.29m、短軸0.79m、深さ0.3mである。平面形は隅丸方形、断面形は方形を呈する。

出土遺物 山茶碗片2点が出土している。大洞東1号窯式に比定される。

時期 出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

2 包含層出土遺物

北区では包含層から46点の遺物が出土している。このうち17点を図示している。

(1) 山茶碗(第11図5～17、写真図版5)

30点出土している。すべて東濃産の北部系山茶碗である。このうち時期の特定できるものは21点である。これらはすべて碗であり、明和1号窯式に比定されるもの2点、大畠大洞4号窯式に比定されるもの8点、大谷洞14号窯式に比定されるもの2点、大洞東1号窯式に比定されるもの2点である。他の9点は碗7点と皿2点である。いずれも小片で時期を特定できないが、大畠大洞4号窯式期以降に比定されると考えられる。

図示した山茶碗のうち、5と13は明和1号窯式に比定される碗で、13は小碗である。6、9、10、12、14、15、17は大畠大洞4号窯式に比定される碗である。このうち17は御碗で、内面にオロシ目が確認できる。また、底部外面まで含めた外面全体に自然釉が付着しており、重ね焼きの最上段で蓋として焼成されたものと考えられる。7、8は大谷洞14号窯式に比定される碗、11、16は大洞東1号窯式に比定される碗である。

(2) 古瀬戸(第11図19、写真図版5)

1点出土している。19は古瀬戸の盤類である。内外面に灰釉が施される。古瀬戸後期に比定される。

(3) 大窯(第11図20、写真図版5)

1点出土している。20は丸皿である。内外面に鉄釉、内面底部には印花文が施される。高台はケズリ込み高台となっている。

(4) 近世陶器(第11図18、写真図版5)

6点出土している。18以外は小片で時期を特定できない。18は天目茶碗である。内外面には鉄釉が施されているが、その鉄釉に灰釉を流している。土岐川以南の中馬系の窯によるものと考えられる。連房Ⅱ期に比定される。

(5) 須恵器

1点出土しているが、小片で詳細は不明である。

(6) 土師器

4点出土しているが、小片で詳細は不明である。

(7) 灰釉陶器

1点出土している。壺の頸部と思われる破片が1点出土している。外面に自然釉が認められ、2次的な被熱を受けた痕跡がある。

(8) 磁器

1点出土している。小片で詳細は不明である。

(9) 打製石斧(第11図21、写真図版5)

1点出土している。ホルンフェルス製で基部が折損している。正面に原礫面を大きく残す。短冊形。

第4節 南区の遺構と遺物

1 検出した遺構と遺構内出土遺物

ここでは南区で検出した遺構のうち、遺物の出土した溝跡3条、土坑5基について報告する。遺物は出土していないが、人為的に礫を配した集石遺構についても報告する。また、遺構内出土遺物は南区で12点出土しており、その中で5点を図示している(第14図)。

(1) 溝跡(S D)

S D17(第12図、写真図版3)

位置・検出状況 調査区中央部のCD 6グリッドで検出した。SD18とSD19を切る形で掘り込まれている。検出時には埋土の色調の区別がつきにくく、セクションベルトを残して確認しながら一体として掘り下げた。その結果、全体を20cm程度掘り下げ、SD19の底がほぼ確認できた時点で切り合い関係を把握した。SD17は調査区を北から南へに延びるが、調査区の南側でほぼ直交して東へ向きを変え、さらに調査区南端で再び南へ向かうようである。

形状と規模 長さ11.7m、幅約1.9m、深さ約0.4mである。断面形は逆三角形を呈する。溝の勾配は北から南へ下がっている。

出土遺物 古瀬戸の平碗(22)と土師器の鉢4点が出土している。古瀬戸平碗は内外面に灰釉を施す。土師器鉢(26)は口縁部から胴部にかけて、鉢(27)は平底の底部の破片である。これらは接合しないため別々に図示したが、胎土、色調などから同一個体と考えられる。なお、第12図に出土地点を、ドット及び遺物番号で示している。

時期 出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

S D18(第12図、写真図版3)

位置・検出状況 調査区中央部のCD8グリッドで検出した。SD17に切られ、SD19を切る形で掘り込まれている。SD17に切られているが残存している平面プランは、西から東へそして調査区南端で南に向かっており、SD17と同じような方向の溝と考えられる。SD17はSD18を掘り直して構築した可能性もある。

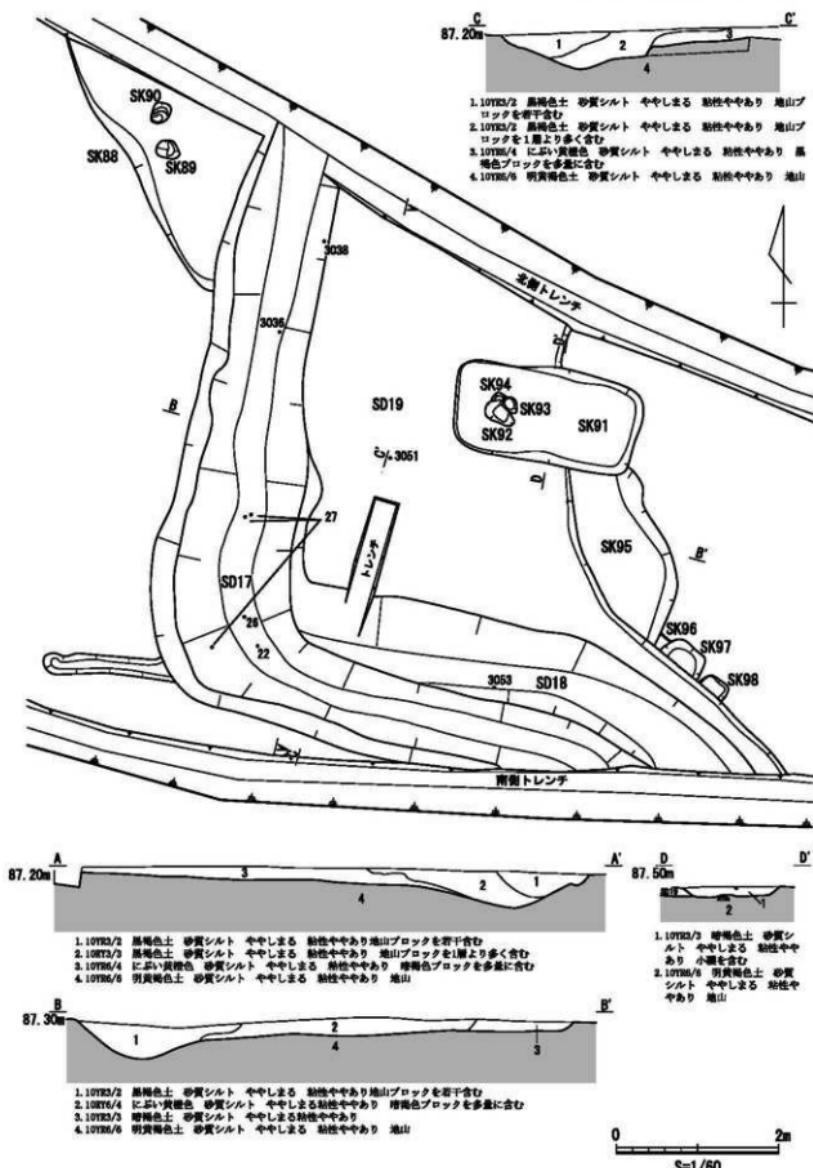
形状と規模 長さ5.45m、幅約0.7m、深さ約0.4mである。断面形は逆三角形を呈する。溝の勾配は西から東へ下がっている。

出土遺物 山茶碗の碗1点が出土している。山茶碗は生田2号窯式に比定される。なお、第12図に出土地点を、ドット及び遺物番号で示している。

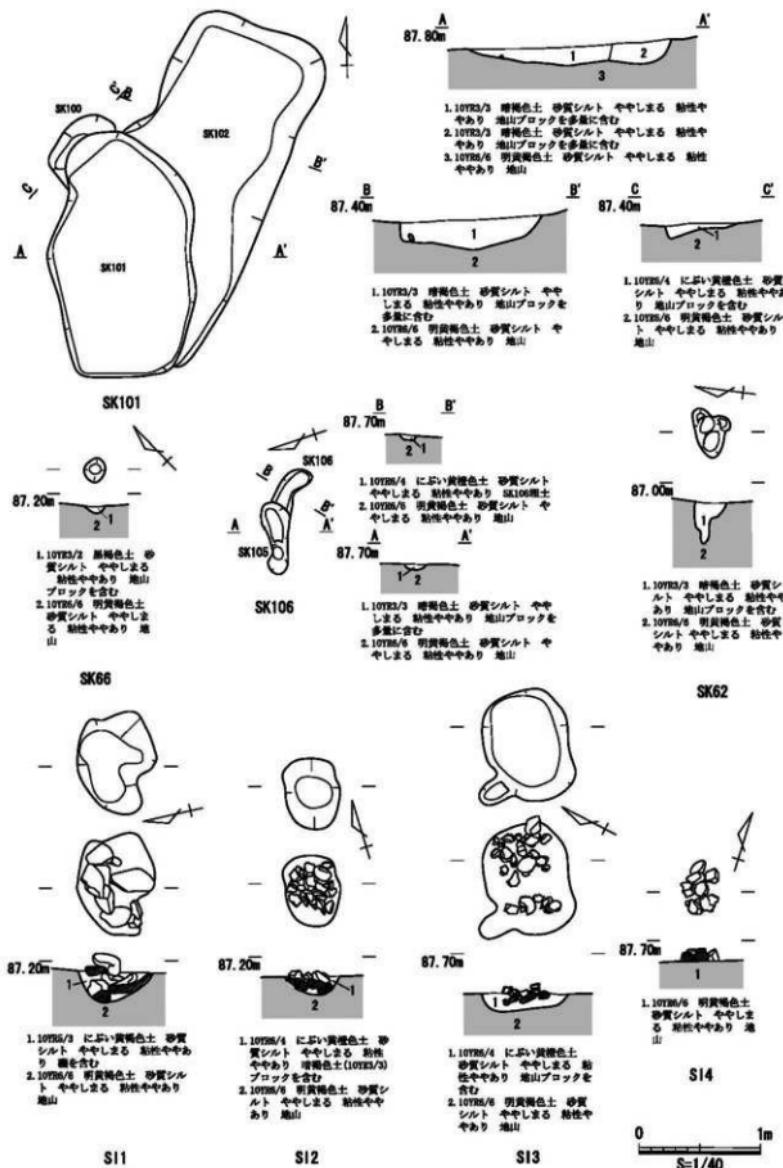
時期 出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

S D19(第12図、写真図版3)

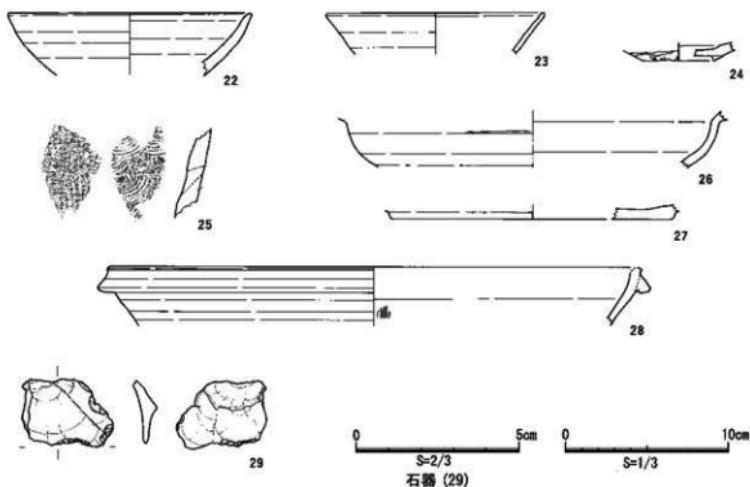
位置・検出状況 調査区中央部のCD8グリッドで検出した。SD17、SD18に切られる形で掘り込まれている。SD17がSD19の西端で切り合っているが、検出時の状況から西側の堀形はSD19のも



第12図 南区の造構(1)・溝跡(SD17-18-19)、土坑(SK91)



第13図 南区の造構(2)・土坑(62・66・101・106)、集石造構(S11~4)



第14図 南区出土の遺物

のであると考えられる。SD17、SD19に比べ非常に浅い溝であるが、これらの溝と同様の方向の溝であったと考えられる。溝の底部では地山の土壤化が進んでおり、地山面に埋土の暗褐色の色調が転移している。

形状と規模 長さ4.4m、幅約3.2m、深さ約0.23mである。断面形は方形を呈する。

出土遺物 古瀬戸の平碗が1点出土している。古瀬戸平碗は内外面に灰釉を施す。なお、第12図に出土地点を、ドット及び遺物番号で示している。

時期 出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

(2) 土坑(S K)

S K91(第12図、写真図版4)

位置・検出状況 調査区中央部のCD9グリッドで検出した。SD19を切る形で掘り込まれている。

SK91を完掘した段階でSK92~94が確認され、これらの遺構もSK91に切られている。

形状と規模 長軸2.28m、短軸1.10m、深さ0.12mである。平面形は隅丸方形、断面形は方形を呈する。

出土遺物 山茶碗の碗(23)が出土している。大洞東1号窯式に比定される。なお、第12図に出土地点を、ドット及び遺物番号で示している。

時期 出土遺物の時期から室町時代と考えられる。

S K101(第13図)

位置・検出状況 調査区東部のCD9、CD10グリッドで検出した。SK100、SK102を切る形で掘

24 第3章 調査の成果

り込まれている。

形状と規模 長軸2.02m、短軸1.18m、深さ0.15mである。平面形は隅丸方形、断面形は方形を呈する。

出土遺物 土師器の小片が出土している。

時期 不明。

S K66(第13図、写真図版4)

位置・検出状況 調査区西部のCB6グリッドで検出した。

形状と規模 長軸0.19m、短軸1.18m、深さ0.05mである。平面形は円形、断面形は半円形を呈する。

出土遺物 下呂石製のMF(29)が出土している。不規則な剥離が確認できる剥片である。

時期 縄文時代。

S K106(第13図)

位置・検出状況 調査区東部のCD11グリッドで検出した。SK105に切られている。

形状と規模 長軸0.35m、短軸0.15m、深さ0.03mである。平面形は不定型な円形、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 土師器の小片が出土している。

時期 不明。

S K62(第13図)

位置・検出状況 調査区西部のCB5グリッドで検出した。

形状と規模 長軸0.42m、短軸0.15m、深さ0.33mである。平面形は不定型な円形、断面形は2段の掘り込みを呈する。

出土遺物 中世と思われる瓦片が出土している。

時期 中世。

(3)集石遺構(S I)

S I 1(第13図、写真図版4)

位置・検出状況 調査区中央部のCB6、CB7グリッドで検出した。検出段階で人頭大の川原石が露出していた。

形状と規模 長軸0.84m、短軸0.65m、深さ0.25mである。平面形は不定形な円形、断面形は逆三角形を呈する。他の集石遺構と比べるとかなり大きな人頭大の川原石が、不規則に詰め込まれている。

出土遺物 なし。

時期 不明。

S I 2(第13図、写真図版4)

位置・検出状況 調査区西部のCC6グリッドで検出した。検出段階でこぶし大の川原石が露出していた。

形状と規模 長軸0.58m、短軸0.45m、深さ0.15mである。平面形はだ円形、断面形は半円形を呈する。

こぶし大の川原石が、堀形全体に詰め込まれている。被熱を受けた石も認められた。

出土遺物 なし。

時期 不明。

S I 3(第13図)

位置・検出状況 調査区西部のC C 6 グリッドで検出した。検出段階でこぶし大の川原石が露出していた。

形状と規模 長軸0.92m、短軸0.77m、深さ0.12mである。平面形はだ円形、断面形は半円形を呈する。こぶし大の川原石がまばらに詰め込まれているが、土坑下端とは接しておらず、ある程度土坑が埋まった段階で詰め込まれたと考えられる。被熱を受けた石も認められた。

出土遺物 なし。

時期 不明。

S I 4 (第13図)

位置・検出状況 調査区東部のCD11グリッドで検出した。検出段階でこぶし大の川原石が確認できため、石を残して検出した。下部の掘り込みは認められなかった。

形状と規模 集石の範囲は長軸0.43m、短軸0.27mである。堀形は持たないが、周囲には通常石が認められないため、集石遺構と考えている。川原石が10個程度寄せ集められている。

出土遺物 なし。

時期 不明。

2 包含層出土遺物

南区では包含層から6点の遺物が出土している。このうち3点を図示している。

(1)山茶碗(第14図24、写真図版4)

2点出土している。いずれも碗である。24は底部の破片で大洞東1号窯式に比定される。

(2)須恵器(第14図25、写真図版4)

1点出土している。25は壺の腹部の破片で内外面にタタキ目が確認できる。

(3)大窯(第14図28、写真図版4)

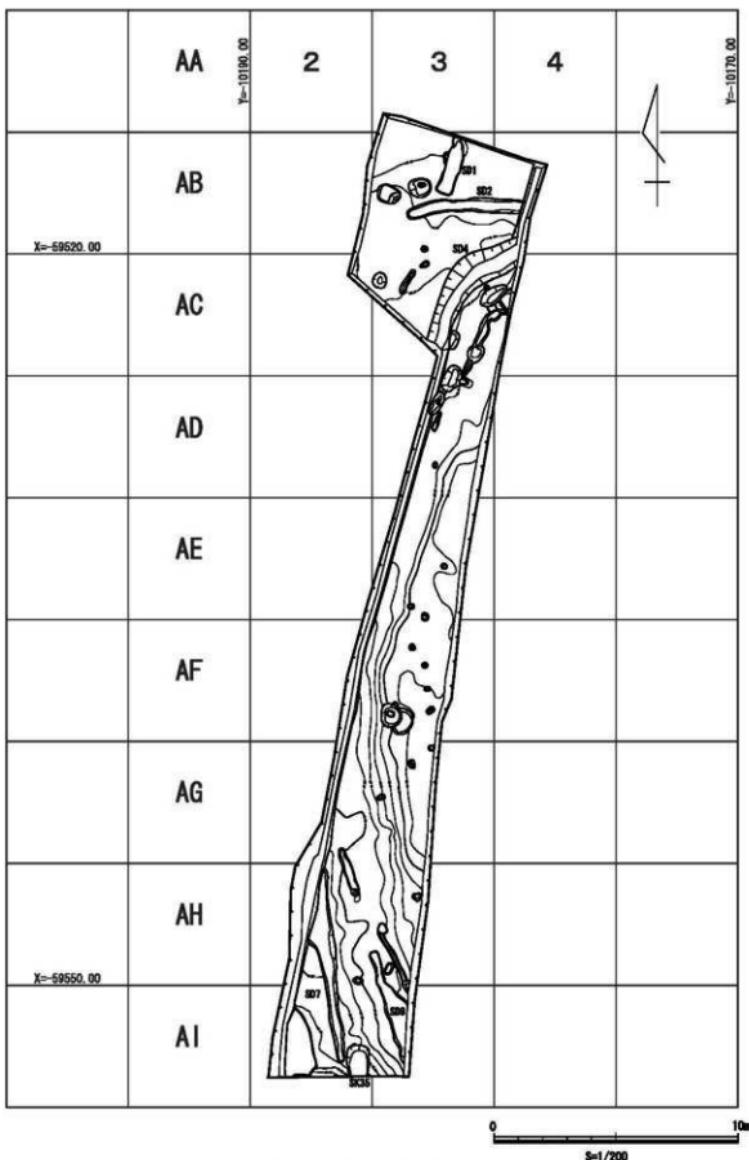
1点出土している。28は擂鉢である。内外面に鉄釉が施される。

(4)近世陶器

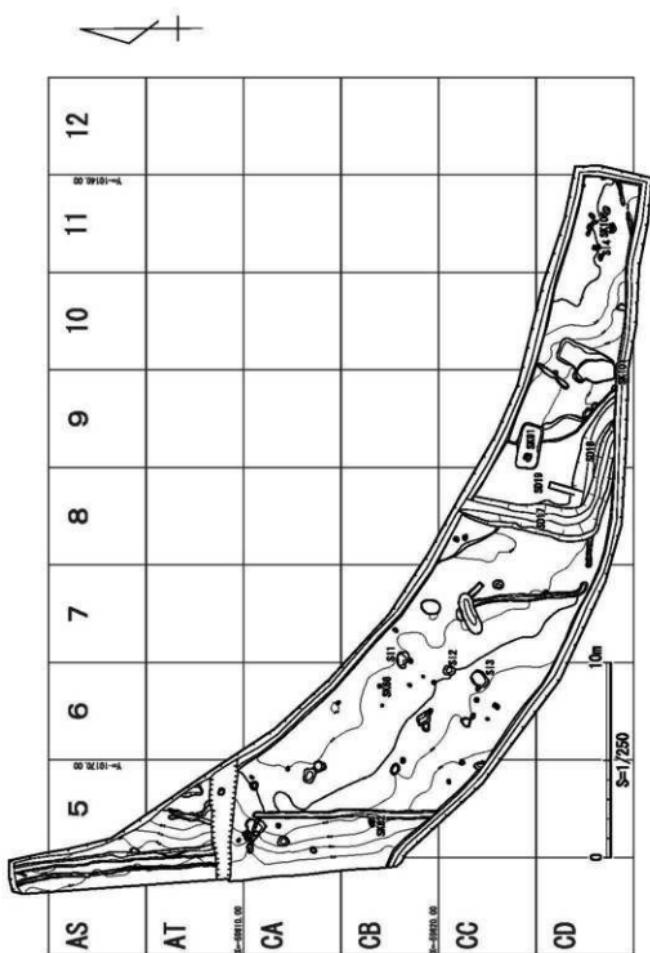
1点出土している。小片で詳細は判明しないが、呉須が施されている。

(5)磁器

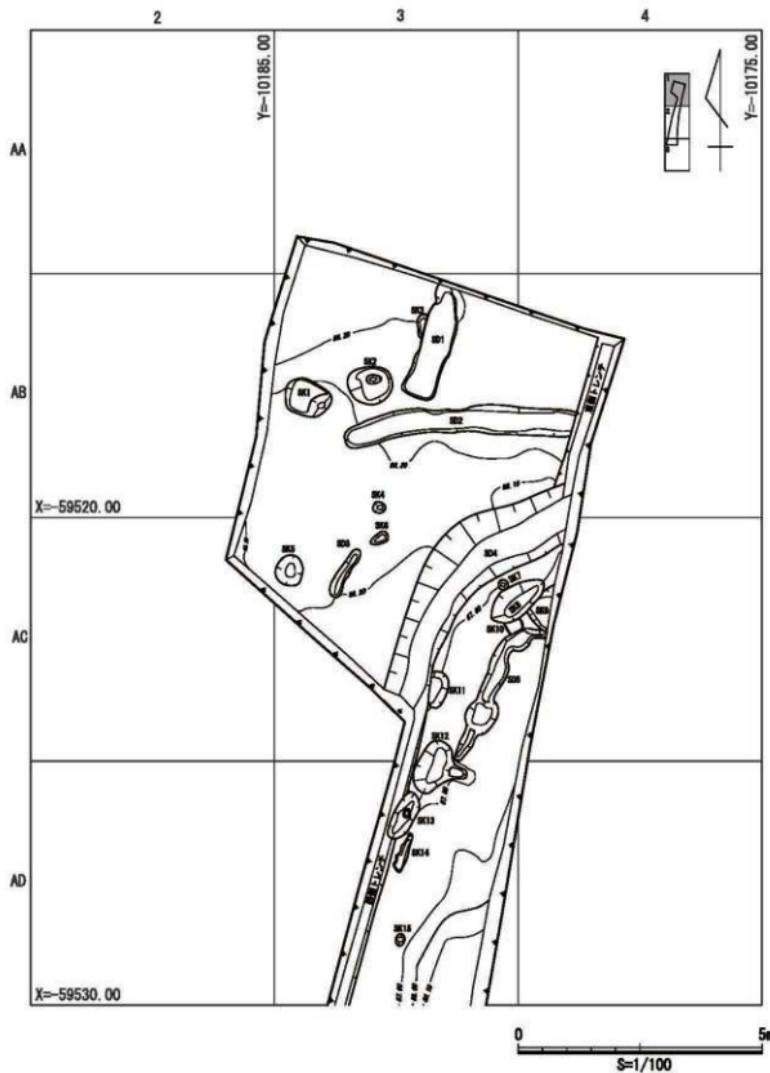
1点出土している。小片で詳細は不明である。



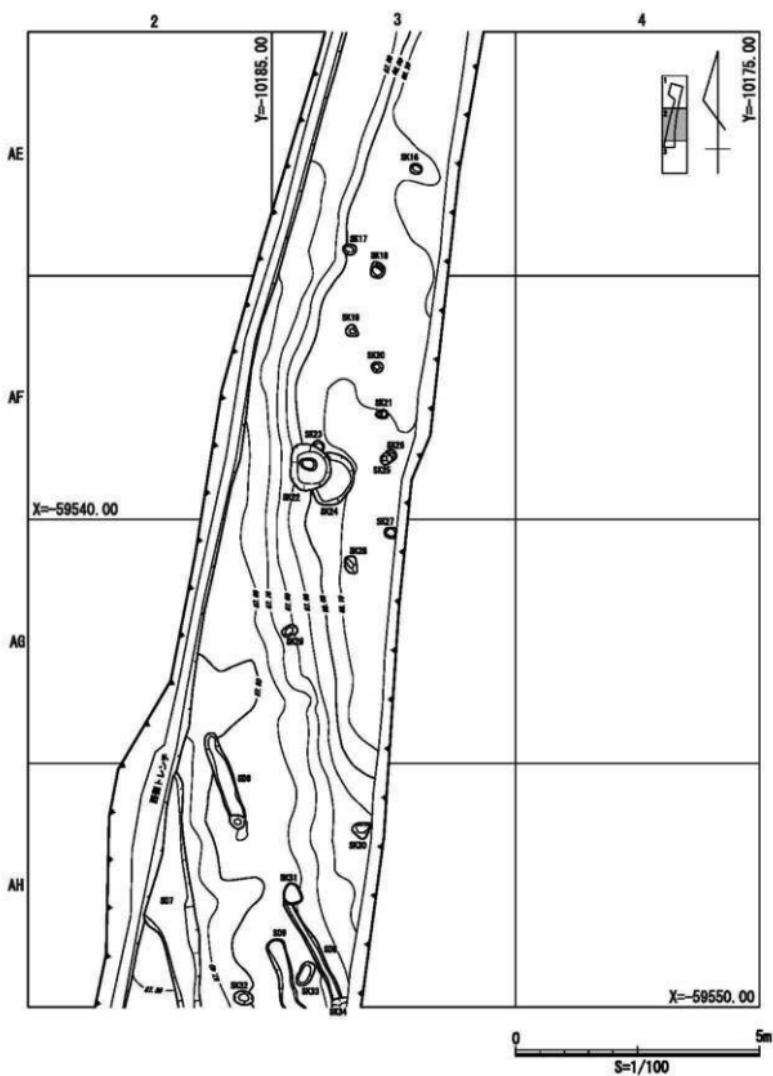
第15回 調査区全体図(北区)



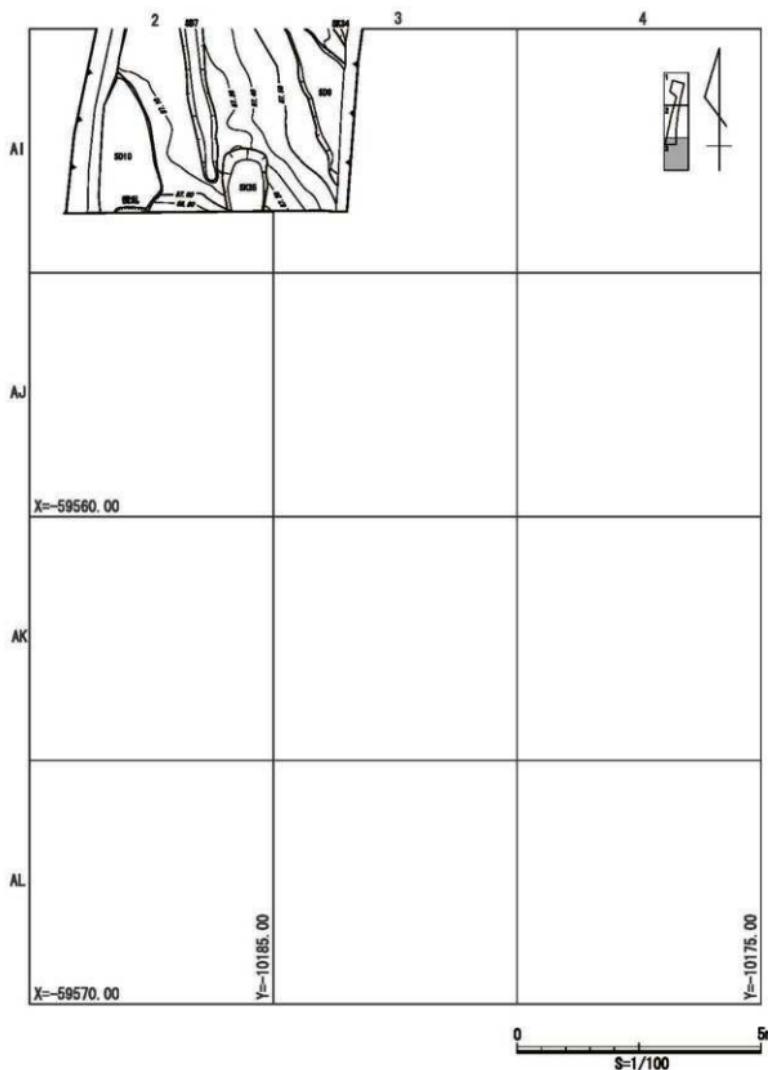
第16図 調査区全体図(南区)



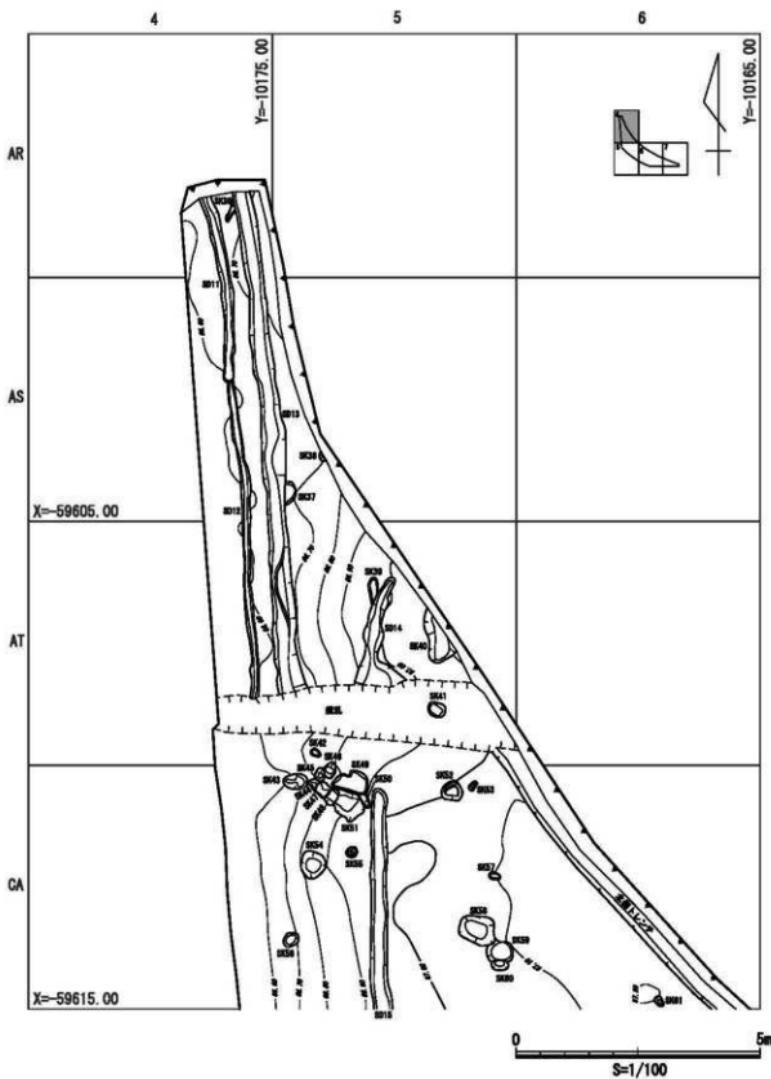
第17図 調査区分割図 1



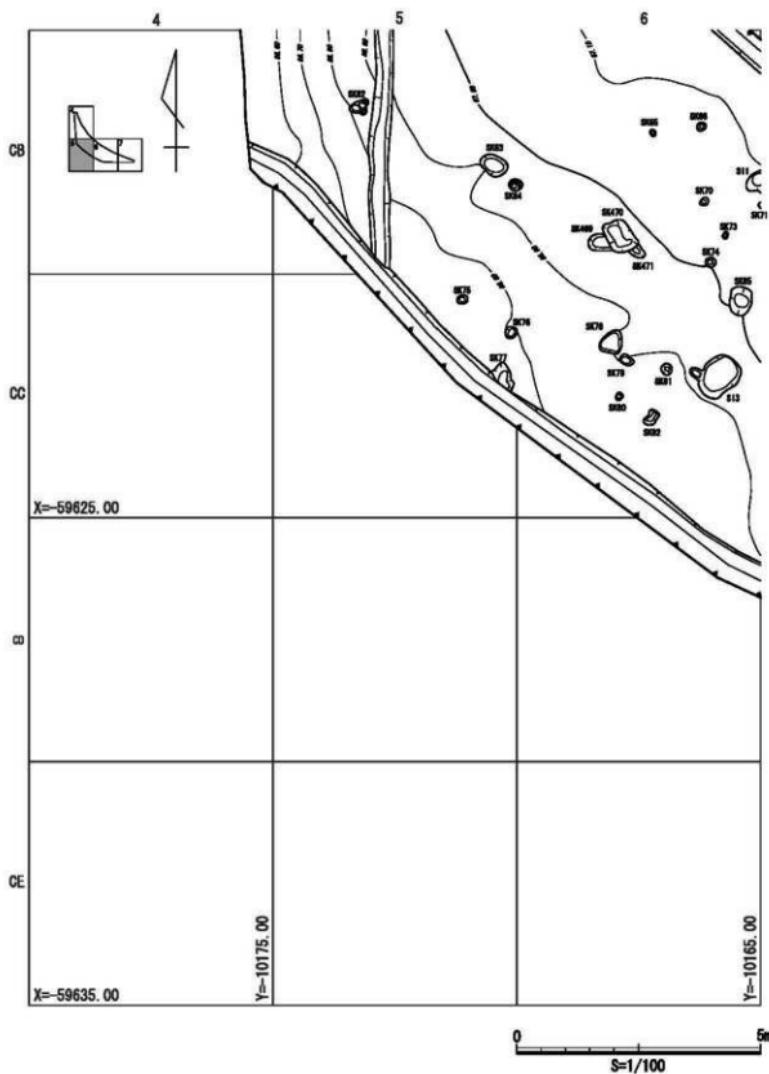
第18回 調査区分割図2



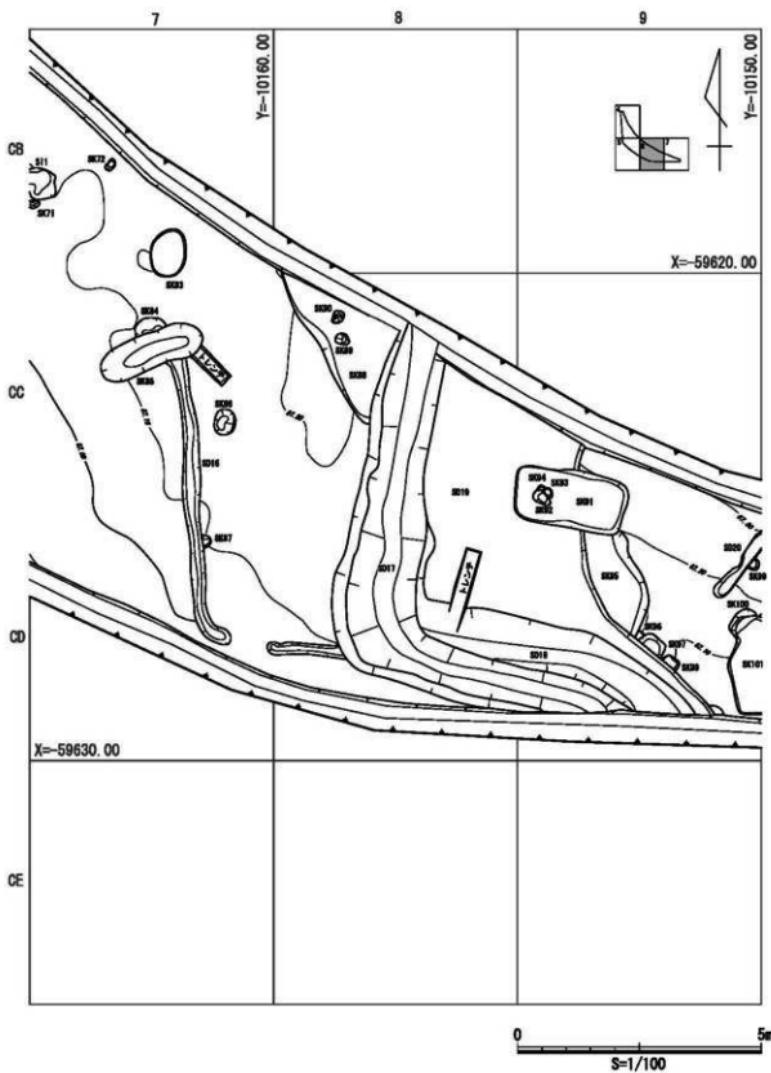
第19図 調査区分割図 3



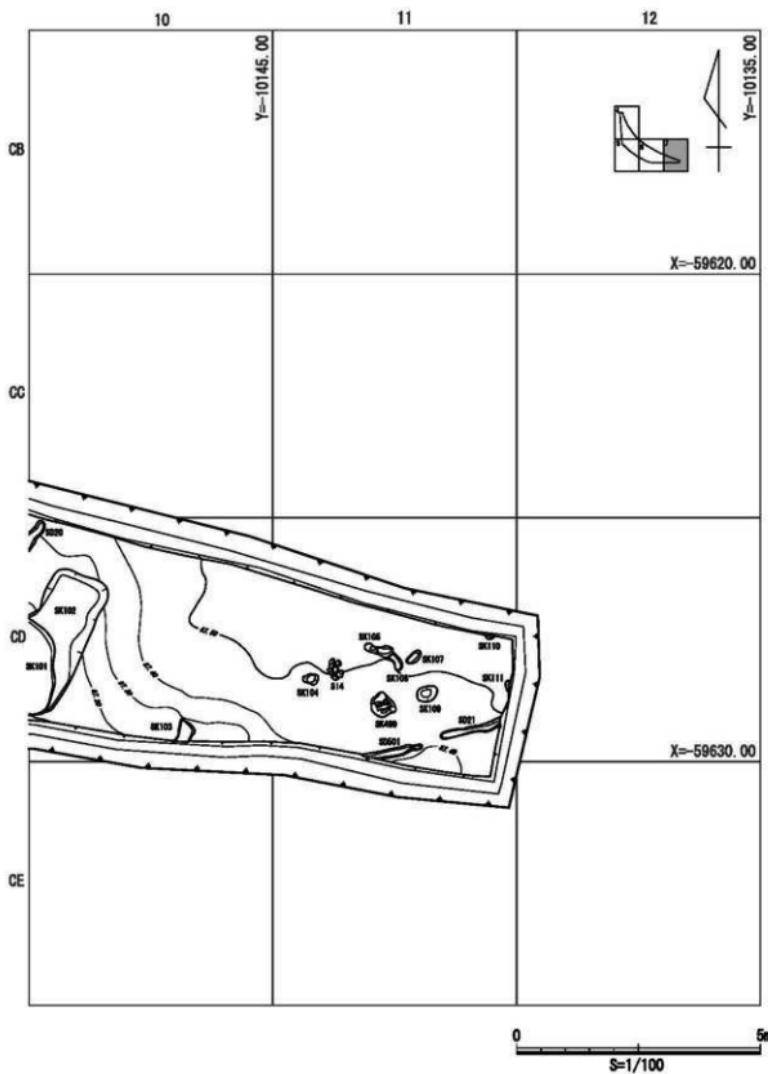
第20圖 調査區分割圖 4



第21圖 調査區分割圖 5



第22図 調査区分割図 6



第23図 調査区分図 7

第5表 造構一覧表(1)

造構番号	基盤番号	地区	グリッド		突出面	平面形状	底面形状	断面形状	大きさ(a)				基礎関係		所属時期				
									上端		下端		間隔						
			南北	東西					長幅	短幅	長幅	短幅	距離	< (切られる)	> (切る)				
SD1 404	北区	AB	3	III上	c	c	a	H	(2.85)	0.69	2.2	0.52	0.09			SK03			
SD2 405	北区	AB	3~4	III上	c	c	b	IV	(4.72)	0.46	(6.77)	0.34	0.56						
SD3 549	北区	AC	3	III上	s	a	a	H	1.09	0.22	0.89	0.07	0.06						
SD4 445	北区	AC	3	III上	c	c	a	I	(5.23)	1.06	(5.23)	0.63	0.14			SK11			
SD6 407	北区	AC	3~4	III上	c	c	a	H	(3.42)	0.33	(3.45)	0.16	0.1	SK09		大昭和4			
SD6 431	北区	AG~AI	2	III上	c	c	a	H	2.04	0.23	1.91	0.22	0.1						
SD7 430	北区	AH~AI	2	III上	c	c	a	IV	(6.61)	0.46	(6.67)	0.22	0.2			大南1			
SD8 432	北区	AE	3	III上	c	c	a	I	(2.16)	0.2	(2.16)	0.09	0.11	SK01, SK04					
SD9 436	北区	AI	3	III上	s	a	a	H	(3.97)	0.58	(3.95)	0.47	0.06			大云間14			
SD10 443	北区	AI	2	III上	c	c	a	H	2.87	(1.95)	2.75	(1.91)	0.31						
SD11 446	南区	AS	4	III上	c	c	a	IV	(3.89)	0.26	(3.89)	0.1	0.08			SK12			
SD12 450	南区	AS	4	III上	c	c	a	I	(6.46)	0.19	(6.45)	0.09	0.08	SD11					
SD13 448	南区	AS	4	III上	c	c	a	I	(2.39)	0.49	(2.39)	0.38	0.19			SK36, SK37			
SD14 455	南区	AT	5	III上	c	c	a	H	(2.29)	0.7	(2.21)	0.46	0.23	SK39					
SD16 456	南区	CA~CB	5	III上	c	b	a	I	(4.65)	0.18	(4.62)	0.09	0.04						
SD16 479	南区	CC~CD	7~8	III上	c	c	a	H	(6.03)	0.3	(6.92)	0.09	0.08	SK85					
SD17 555	南区	CD	6	III上	c	c	a	H	(11.7)	1.9	(11.7)	0.39	0.4	SD18, SD19	生田2				
SD18 559	南区	CD	8	III上	c	c	a	H	(5.45)	(0.7)	(4.0)	0.4	0.4	SD17	SD19				
SD19 485	南区	CD	8	III上	c	c	b	H	(4.4)	(3.2)	(4.4)	(3.1)	0.23	SK01, SD17, SD18, SK09	SK08, SK09, SK07, SK09	古瀬戸(後期)			
SD20 490	南区	CD	9~10	III上	c	c	a	IV	1.97	0.26	1.86	0.23	0.03			SK09			
SD21 501	南区	CD	11	III上	c	c	a	H	(1.13)	0.13	(1.1)	0.06	0.03						
SI1 475	南区	CR	6~7	III上	c	c	a	H	0.84	0.66	0.6	0.6	0.25						
ST2 475	南区	CC	8	III上	s	a	a	I	0.69	0.46	0.3	0.26	0.16						
SI3 511	南区	CC	6	III上	s	a	a	I	0.92	0.77	0.71	0.65	0.12						
SI4 545	南区	CD	11	III上	-	-	-	I	0.43	0.27	0	0							
SK1 461	北区	AB	3	III上	a	c	a	VI	0.95	3.7	0.62	0.45	0.06						
SK2 402	北区	AB	3	III上	a	c	a	VI	0.9	0.78	0.61	0.56	0.12						
SK3 403	北区	AB	3	III上	a	a	a	H	(0.49)	(0.13)	0.35	(0.69)	0.04	SD1					
SK4 550	南区	AS	4	III上	a	a	a	I	0.25	0.22	0.12	0.09	0.03						
SK5 547	北区	AC	3	III上	a	a	a	I	0.62	0.65	0.28	0.21	0.14						
SK6 548	北区	AC	3	III上	a	a	a	I	0.38	0.22	0.25	0.11	0.06						
SK7 444	北区	AC	3	III上	a	a	a	H	0.2	0.2	0.1	0.07	0.08						
SK8 406	北区	AC	3~4	III上	s	a	a	I	1.3	0.58	0.89	0.22	0.19			SK9, SK10			
SK9 432	北区	AC	4	III上	c	c	a	I	0.94	0.43	0.64	(0.33)	0.12	SK08	SK06				
SK10 441	北区	AC	3	III上	s	a	a	VI	0.85	0.23	0.5	0.23	0.12	SK08, SK06					
SK11 406	北区	AC	3	III上	s	a	a	I	0.74	0.35	0.54	0.2	0.27	SD4					
SK12 409	北区	AC~AD	3	III上	c	c	a	I	1.15	0.77	0.8	0.34	0.16						
SK13 410	北区	AB	2	III上	c	c	a	VI	1.03	0.48	0.76	0.17	0.27			SK14, SK24			
SK14 410	北区	AD	3	III上	c	c	a	IV	0.82	0.16	0.65	0.07	0.06	SK13					
SK15 411	北区	AD	3	III上	s	a	a	I	0.24	0.18	0.13	0.09	0.03						
SK16 415	北区	AB	3	III上	s	a	a	I	0.24	0.21	0.18	0.11	0.1						
SK17 414	北区	AB	3	III上	s	a	a	I	0.27	0.21	0.17	0.1	0.06						
SK18 415	北区	AB	3	III上	s	a	a	VI	0.32	0.28	0.2	0.14	0.24						
SK19 416	北区	AF	3	III上	s	a	a	I	0.27	0.22	0.13	0.08	0.08						
SK20 417	北区	AF	3	III上	s	a	a	IV	0.28	0.21	0.12	0.11	0.16						
SK21 416	北区	AF	3	III上	s	a	a	I	0.25	0.17	0.12	0.08	0.14						
SK22 425	北区	AF	3	III上	s	a	a	VI	0.95	0.8	0.66	0.59	0.22			SK34, SK23			
SK23 425	北区	AF	3	III上	s	a	a	H	(2.23)	(0.15)	(0.13)	0.13	0.07						
SK24 421	北区	AF	3	III上	s	a	a	I	1.07	(0.8)	0.86	0.62	0.07	SK22					
SK25 410	北区	AF	3	III上	s	a	a	IV	0.84	0.19	0.11	0.09	0.06	SK36					
SK26 420	北区	AF	3	III上	s	a	a	I	0.23	(0.14)	0.15	(0.1)	0.18	SK26					
SK27 424	北区	AG	3	III上	s	a	a	IV	0.23	0.21	0.18	0.14	0.26						
SK28 425	北区	AG	3	III上	c	a	a	I	0.35	0.22	0.21	0.07	0.1						
SK29 427	北区	AG	3	III上	s	a	a	I	0.32	0.18	0.17	0.1	0.06						
SK30 426	北区	AH	3	III上	c	c	a	II	0.4	0.27	0.26	0.13	0.07						
SK31 429	北区	AH	3	III上	s	a	a	I	0.43	0.36	0.37	0.31	0.07	SK06					
SK32 430	北区	AH	2	III上	s	a	a	I	0.4	0.28	0.2	0.15	0.08						
SK33 426	北区	AH	3	III上	s	a	a	IV	0.62	0.27	0.4	0.18	0.04						
SK34 442	北区	AI	3	III上	c	c	a	IV	0.84	0.29	0.36	0.13	0.06	SK08					
SK35 440	北区	AI	2	III上	c	c	h	H	(1.20)	0.79	(1.05)	0.65	0.3			大昭和1			
SK36 510	南区	CA	4	III上	c	c	a	I	(0.51)	0.06	(0.26)	0.06	0.03	SD13					
SK37 454	南区	AS	5	III上	c	c	a	IV	0.46	(0.23)	0.39	(0.19)	0.07	SD13					
SK38 453	南区	AS	5	III上	s	a	a	H	(0.23)	0.06	0.06	(0.03)	0.21						
SK39 456	南区	AT	5	III上	c	c	a	I	(0.64)	0.21	(0.71)	0.07	0.11	SD14					
SK40 467	南区	AT	5	III上	c	c	a	IV	(0.77)	(0.6)	(0.64)	(0.26)	0.15						
SK41 529	南区	AT	5	III上	s	a	a	I	0.35	0.25	0.29	0.18	0.06						
SK42 530	南区	AT	5	III上	s	a	a	IV	0.22	0.14	0.16	0.09	0.03						
SK43 533	南区	CA	5	III上	s	c	a	I	0.49	0.31	0.37	0.21	0.06	SK44					
SK44 564	南区	CA	5	III上	c	c	a	IV	(0.17)	(0.16)	(0.17)	(0.16)	0.04	SK47, SK46					
SK45 553	南区	CA	5	III上	s	a	a	H	0.28	0.19	0.2	0.15	0.07	0.03	SK44, SK46				
SK46 565	南区	CA	5	III上	s	c	a	H	0.33	0.24	0.14	0.11	0.2	SK46					
SK47 552	南区	CA	5	III上	s	s	a	IV	0.27	(0.26)	0.23	(0.16)	0.05	SK44					

第6表 造構一覧表(2)

造構番号	地盤番号	地区	グリッド			検出面	平面形状	底面形状	横模状況	断面形状	大きさ(m)			重複個体			所属地図	
			南北	東西	高さ						上端	下端	延長	底物	鉢輪	調査	<(切られる)	>(切る)
SK48 551	南区	CA	6	田上	a	a	a	I	0.33	0.31	0.28	0.19	0.05					SK51, SK47
SK49 531	南区	CA	5	田上	c	c	a	IV	0.73	0.45	0.67	0.37	0.04					SK50
SK50 564	南区	CA	6	田上	a	a	a	I	(0.3)	(0.11)	(0.26)	(0.09)	0.05	SK49, SK51				
SK51 532	南区	CA	5	田上	c	c	a	I	(0.57)	0.46	(0.94)	0.3	0.05	SK48				
SK52 526	南区	CA	6	田上	a	a	a	IV	0.43	0.27	0.39	0.18	0.05					SK50
SK53 527	南区	CA	6	田上	a	a	a	I	0.21	0.12	0.11	0.04	0.04					
SK54 503	南区	CA	6	田上	a	a	a	I	0.65	0.5	0.31	0.3	0.05					
SK55 534	南区	CA	5	田上	a	a	a	III	0.23	0.18	0.07	0.06	0.33					
SK56 501	南区	CA	6	田上	a	a	a	IV	0.35	0.27	0.23	0.17	0.04					
SK57 460	南区	CA	5	田上	a	a	a	I	0.24	0.14	0.19	0.07	0.03					
SK58 461	南区	CA	6	田上	c	c	a	I	0.79	0.58	0.49	0.28	0.18	SK59				
SK59 462	南区	CA	5	田上	c	a	a	II	0.63	0.4	0.45	0.35	0.04	SK59, SK60				
SK60 463	南区	CA	6	田上	a	a	a	III	0.34	0.14	0.19	0.06	0.11	SK59				
SK61 465	南区	CA-CB	6	田上	c	c	a	III	0.23	0.14	0.13	0.06	0.06					
SK62 508	南区	CB	6	田上	c	a	a	VI	0.42	0.16	0.3	0.13	0.33					
SK63 467	南区	CA	6	田上	a	a	a	IV	0.57	0.4	0.42	0.26	0.08					
SK64 468	南区	CB-6	6	田上	a	a	a	VII	0.28	0.23	0.09	0.09	0.12					
SK65 542	南区	CB	6	田上	a	a	a	I	0.14	0.12	0.08	0.05	0.03					
SK66 523	南区	CB	6	田上	a	a	a	I	0.19	0.09	0.16	0.08	0.05					
SK67 469	南区	CB	6	田上	a	a	a	I	(0.4)	0.34	(0.3)	0.22	0.04	SK68				
SK68 470	南区	CB	6	田上	b	c	a	III	0.67	0.51	0.49	0.2	0.16	SK67, SK69				
SK69 471	南区	CB	6	田上	a	a	a	I	0.28	0.22	(0.17)	0.1	0.05	SK68				
SK70 529	南区	CA	6	田上	a	a	a	I	0.17	0.15	0.08	0.08	0.27					
SK71 474	南区	CB	6-7	田上	c	a	a	III	0.35	0.16	0.17	0.06	0.04					
SK72 526	南区	CB	7	田上	a	a	a	IV	0.26	0.16	0.19	0.1	0.15					
SK73 520	南区	CB	6	田上	a	a	a	I	0.15	0.07	0.1	0.05	0.04					
SK74 519	南区	CB	6	田上	a	a	a	I	0.2	0.11	0.2	0.09	0.06					
SK75 536	南区	CC	6	田上	a	a	a	I	0.22	0.11	0.17	0.12	0.33					
SK76 517	南区	CB	6	田上	a	a	a	I	0.25	0.17	0.24	0.12	0.06					
SK77 509	南区	CC	6	田上	c	c	a	I	0.64	(0.33)	0.29	0.25	0.14					
SK78 516	南区	CC	6	田上	a	a	a	IV	0.5	0.43	0.36	0.36	0.07					
SK79 514	南区	CC	6	田上	a	a	a	I	0.38	0.18	0.19	0.13	0.08					
SK80 513	南区	CC	6	田上	a	a	a	I	0.16	0.09	0.13	0.08	0.06					
SK81 518	南区	CC	6	田上	a	a	a	I	0.23	0.22	0.09	0.09	0.12					
SK82 512	南区	CC	6	田上	a	a	a	I	0.33	0.19	0.21	0.08	0.06					
SK83 476	南区	CB-CC	7	田上	a	a	a	II	0.75	0.93	0.66	0.66	0.08					
SK84 477	南区	CC	7	田上	c	c	a	II	0.67	0.32	0.4	(0.05)	0.33	SK85				
SK85 478	南区	CC	7	田上	c	c	a	III	2.18	0.72	1.4	0.9	0.43	SK84, SD16				
SK86 480	南区	CC	7	田上	a	a	a	III	0.53	0.43	0.29	0.23	0.2					
SK87 481	南区	CD	7	田上	a	a	a	IV	0.25	(0.18)	(0.14)	0.11	0.06	SD15				
SK88 482	南区	CC	8	田上	c	c	a	II	2.14	(1.29)	(1.14)	0.11	0.2	SK89, SK90, SD19				
SK89 483	南区	CC	8	田上	a	a	a	III	0.29	0.22	0.17	0.11	0.2	SK88				
SK90 484	南区	CC	8	田上	a	c	a	II	0.36	0.21	0.13	0.08	0.38	SK88				
SK91 486	南区	CD	9	田上	b	b	a	I	2.28	1.1	0.93	0.12		SD19, SK92, SK93, SKD4, SK95	大西東1			
SK92 550	南区	CD	9	田上	a	a	a	IV	6.4	(0.22)	0.19	(0.15)	0.13	SK91, SK93	SK94			
SK93 567	南区	CD	9	田上	a	a	a	IV	0.21	0.16	0.15	0.11	0.05	SK91	SK92, SK94			
SK94 558	南区	CD	9	田上	a	a	a	I	(0.12)	(0.06)	(0.06)	0.06	0.05	SK91, SK92, SK93	SK95			
SK95 488	南区	CD	9	田上	c	c	a	I	2.43	0.84	(2.23)	0.78	0.06	SK91, SD19	SK96			
SK96 563	南区	CD	9	田上	c	c	a	II	0.17	0.12	(0.14)	0.12	0.07	SD19, SK94, SK97	SK96			
SK97 561	南区	CD	9	田上	c	c	a	I	0.68	(0.25)	0.45	(0.2)	0.1	SD19	SK96			
SK98 562	南区	CD	9	田上	c	c	a	I	0.36	(0.19)	0.27	(0.15)	0.06	SD19	SK96			
SK99 489	南区	CD	9	田上	a	b	a	IV	0.24	(0.18)	0.18	(0.12)	0.06	SD19				
SK100 560	南区	CD	9	田上	a	a	a	III	0.68	(0.12)	0.31	(0.03)	0.1	SK101				
SK101 492	南区	CD	9-10	田上	c	c	a	II	2.02	1.18	1.9	1.1	0.16		SK102, SK100			
SK102 493	南区	CD	10	田上	c	c	a	I	(1.45)	1.34	(1.36)	1.04	0.23	SK101				
SK103 494	南区	CD	10	田上	b	b	a	IV	0.45	0.26	(0.45)	0.22	0.06					
SK104 495	南区	CD	11	田上	c	a	a	IV	0.31	0.2	0.19	0.14	0.06					
SK105 496	南区	CD	11	田上	c	c	a	I	0.69	0.12	0.11	0.08	0.04		SK106			
SK106 497	南区	CD	11	田上	c	c	a	IV	(0.38)	0.15	(0.33)	0.08	0.03	SK106				
SK107 498	南区	CD	11	田上	a	a	a	VI	0.35	0.17	0.27	0.1	0.08					
SK108 499	南区	CD	11	田上	c	c	a	VI	0.5	0.42	0.3	0.05	0.05					
SK109 500	南区	CD	11	田上	a	a	a	I	0.4	0.31	0.2	0.15	0.14					
SK110 537	南区	CD	11	田上	a	a	a	II	0.2	(0.14)	(0.12)	0.08	0.09					
SK111 538	南区	CD	11	田上	a	a	a	I	0.22	(0.09)	0.12	(0.04)	0.13					

第7表 土器類観察表(1)捲織遺物

遺物番号	地区	グリッド	遺構番号	器種	部位	形状(cm)	内面		外面		成形・調整	釉質	時期	写真	
							日付	高さ	幅	内面					
1 北区 A03 SP4	古墳戸	灰陶	-	(10.0)	-	-	10786/6	2.877/4	-	-	回転ナデ	回転系御模	内外面実物	古墳戸象形 11 5	
2 北区 A03 SP4	山茶瓶	瓶	(13.7)	(5.9)	5.1	-	2.877/2	2.877/2	回転ナデ	貼付高台	貼付高台へフ	-	大坂大崩 4	11 5	
3 北区 A03 SP9	山茶瓶	瓶	-	(6.8)	-	-	2.877/1	2.877/2	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	大谷窯14	11 5	
4 北区 A03 SP9	山茶瓶	瓶	-	(6.4)	-	-	2.877/1	2.877/2	ナデ	-	-	-	内外面自然物	11 5	
5 北区 A03 SP9	山茶瓶	瓶	-	-	-	-	2.877/1	2.877/2	回転ナデ	-	-	-	明治 1	11 5	
6 北区 A03 SP9	山茶瓶	瓶	-	(4.6)	-	-	2.877/1	2.877/2	回転ナデ	貼付高台	内面自然物	-	大坂大崩 4	11 5	
7 北区 A03 SP9	山茶瓶	瓶	-	(4.8)	-	-	10786/4	2.878/3	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	大谷窯14	11 5	
8 北区 A03 SP9	山茶瓶	瓶	(11.6)	-	-	-	2.877/1	2.877/2	回転ナデ	-	-	-	大谷窯14	11 5	
9 北区 A03 包含層	山茶瓶	瓶	-	-	(5.7)	-	2.877/1	2.877/1	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	大坂大崩 4	11 5	
10 北区 A03 包含層	山茶瓶	瓶	-	(5.0)	-	-	10786/2	10786/2	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	大坂大崩 4	11 5	
11 北区 A03 包含層	山茶瓶	瓶	(10.6)	(1.4)	-	-	2.877/1	2.877/1	ナデ	回転系御模	貼付高台	-	大坂大崩 1	11 5	
12 北区 A03 包含層	山茶瓶	瓶	-	(6.8)	-	-	2.877/1	2.877/1	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	大坂大崩 4	11 5	
13 北区 A03 包含層	山茶瓶	小瓶	-	(6.0)	-	-	2.877/2	2.877/2	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	初布 1	11 5	
14 北区 A03 包含層	山茶瓶	瓶	-	(4.6)	-	-	2.877/1	2.877/1	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	大坂大崩 4	11 5	
15 北区 A03 包含層	山茶瓶	瓶	-	(6.0)	-	-	2.877/1	2.877/2	回転ナデ	回転系御模	内面自然物	-	大坂大崩 4	11 5	
16 北区 A03 包含層	山茶瓶	瓶	-	(3.8)	-	-	2.877/1	2.877/1	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	大坂大崩 1	11 5	
17 北区 A03 包含層	山茶瓶	瓶	-	(5.8)	-	-	2.877/1	2.877/1	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	外外面自然物	大坂大崩 4	11 5
18 北区 A03 包含層	近世陶器	天日	(10.6)	-	-	-	7.878/3	7.878/1	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	内外面自然物	1 7 C 織錦 11 5	
19 北区 A03 包含層	古墳戸	灰陶	-	-	-	-	878/3	878/3	回転ナデ	-	-	-	古墳戸像形	11 5	
20 北区 A03 包含層	大壺	丸壺	-	(5.20)	-	-	7.878/3	7.878/4	回生文	店頭西側ケズリ込み高台	-	-	内外面自然物	11 5	
22 南区 CB6 SD17	古墳戸	平底	(16.40)	-	-	-	878/2	878/2	-	-	-	-	-	14 4	
23 南区 CB6 SD17	山茶瓶	瓶	(13.1)	-	-	-	2.877/1	2.877/2	回転ナデ	-	-	-	大坂大崩 1	14 4	
24 南区 CB6 SD17	灰陶	灰陶	-	-	-	-	2.878/1	2.878/1	タタキ	-	-	-	-	14 4	
25 南区 AT6 包含層	山茶瓶	瓶	-	(4.4)	-	-	2.878/2	2.877/1	回転ナデ	回転系御模	貼付高台	-	大坂大崩 1	14 4	
26 南区 AT6 包含層	土師器	鉢	-	-	-	-	10786/2	7.878/4	ナデ	ケズリ	-	-	-	14 4	
27 南区 AT6 包含層	土師器	鉢	-	-	-	-	7.878/2	7.878/2	ナデ	ケズリ	-	-	-	14 4	
28 南区 CB6 包含層	大壺	壺	(32.1)	-	-	35.9	10786/2	10786/2	回転ナデ	-	-	-	内外面自然物	14 4	

第8表 打脱石井観察表

遺物番号	地区	グリッド	遺構番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	遺存状況	刃部摩耗	自然面の有無	特徴	写真
21 北区 AT3 包含層	ホルンフェルス	(7.5)	3.4	1.7	(60.9)	-	-	-	折損	なし	あり	11 5	

第9表 MF観察表

遺物番号	地区	グリッド	遺構番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する刃 部 : 位置 : 向方	素材形状	特徴	写真
29 南区 CB6	SK66	-	下呂石	2.8	2.1	0.8	4.5	1 : 末端辺 : 背面 2 : 側辺 : 背面	横長	14 4		

第10表 土壠観察表(2)未掲載遺物

直上 番号	地区 名	グリ ッド 番号	遺種 名	部位 名	色調		成形・調節		釉薬	時期
					内面	外面	内面	外面		
3051	北区	AB5	SD1	土師器	10TET/3	10TET/3				
3059	北区	AB5	SD7	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				
3058	北区	AB5	SD7	瓦	10TET/2	10TET/2				大胡東 1
3047	北区	AB5	SD30	山茶瓶	10TET/3	10TET/3				大胡東 1
3050	北区	AB5	SD30	山茶瓶	10TET/2	10TET/2				大胡大削 4 以前
3010	北区	AB5	包含層	土師器	10TET/2	10TET/2				
3017	北区	AB5	包含層	土師器	10TET/3	10TET/3				
3019	北区	AB5	包含層	土師器	10TET/3	10TET/3				
3017	北区	AB5	包含層	土師器	10TET/1	10TET/1				
3021	北区	AB5	包含層	灰陶器	STB/1	STB/1				
3007	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/2	2. STT/2				大胡大削 4 以前
3007	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				大胡大削 4 以前
3007	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STB/2	2. STB/2				大胡大削 4 以前
3007	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STB/2	2. STB/2				大胡大削 4 以前
3007	北区	AB5	包含層	山茶瓶	10TET/3	10TET/3				大胡大削 4 以前
3007	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				大胡大削 4 以前
3007	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				大胡大削 4 以前
3022	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				大胡大削 4 以前
3017	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/2	2. STT/2				大胡大削 4 以前
3017	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				大胡大削 4 以前
3017	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/2	2. STT/2				大胡大削 4 以前
3017	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/2	2. STT/2				大胡大削 4 以前
3017	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/2	2. STT/2				大胡大削 4 以前
3017	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/2	2. STT/2				大胡大削 4 以前
3017	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/2	2. STT/2				大胡大削 4 以前
3017	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				大胡大削 4 以前
3017	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				大胡大削 4 以前
3021	北区	AB5	包含層	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				大胡大削 4 以前
3024	北区	AB5	包含層	山茶瓶	STB/1	STB/1				大胡東 1
3021	北区	AB5	包含層	近世海器	STB/1	STB/1				大胡大削 4
3021	北区	AB5	包含層	近世海器	10TET/1	10TET/1				
3021	北区	AB5	包含層	近世海器	STB/2/3	2. STT/2				
3021	北区	AB5	包含層	近世海器	STB/2/3	2. STT/2				
3009	北区	AB5	包含層	近世海器	10TET/1	10TET/1	2 次的被熱	外表面自然物		
3021	北区	AB5	包含層	近世海器	STB/2	STB/2				
3013	北区	AC5	包含層	鐵鏺	10TET/1	10TET/1				日本古墳時代後期
3038	南区	CB5	SD17	土師器	STB/7/6	STB/7/6	ナデ	ケズリ		
3036	南区	CB5	SD17	土師器	7. STT/6	7. STT/6	ナデ	ケズリ		
3053	南区	CB5	SD18	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				生田 2
3061	南区	CB5	SD19	古窯戸	平底	STB/3				古窯戸後層
3049	南区	CB5	SD19	瓦	10TET/3	10TET/3	7. STT/6			
3044	南区	CD10	SK101	土師器	7. STB/3	7. STB/3				
3066	南区	CD11	SK106	土師器	7. STB/4	STB/4				
3004	南区	CB5	包含層	山茶瓶	2. STT/1	2. STT/1				大胡大削 4 以前
3003	南区	CA6	包含層	鐵鏺	7. SKL 7/1	7. SKL 7/1	2 次的被熱	内外表面自然物	奈良	
3003	南区	CA6	包含層	近世海器	7. STB4/1	7. STB4/1				

第4章 総括

今回の調査区は遺跡の西端にあたり、段丘崖の段差などもあった。このため、遺跡の全容を解明するような遺構・遺物を確認することはできなかった。ここでは、今回の調査成果から読み取れる事項を整理して総括とする。

1 出土遺物の概相について

今回の調査では、出土遺物数が小破片まで含めて73点と非常に少なかった。これらの遺物の出土グリッドごとに出土数を整理した(第11表)。これによると、北区、南区とも東側グリッドに遺物が集中していることがわかる。東側に平坦面が続き、今回の調査区を西端として遺跡は、東側に展開しているものと考えられる。また、北区においては東側グリッド全体に遺物が出土している中で、調査区の南端部付近の遺物出土が55点中35点と突出している。美濃加茂市教育委員会による試掘・確認調査の結果をみても、13トレンチにおける遺物の出土数は突出している(第1表)。AH、AIグリッドの東側平坦面上に集落などが展開している可能性が考えられる。

器種ごとの様相をみると、山茶碗の出土量が突出している点が注目される。出土遺物中において山茶碗が半数以上を占めている(第4表)。これらの山茶碗は、明和1号窯式期に比定される2点を除いて大畠大洞4号窯式期以降に比定され、14世紀～15世紀に位置付けられる。また、古瀬戸もすべて古瀬戸後期に比定され、14世紀～15世紀に位置付けられる。また、16世紀に比定される大窯製品2点を加え、中世の土器全体では出土遺物73点中43点となり、58.9%を占める。これに対し、近世の遺物は、近世陶器7点と磁器2点で9点となり、12.3%となる。

この中世遺物の出土数が多いという点においては、前回調査でも同様の結果が示されている。前回調査でも山茶碗は出土遺物中39.6%を占めており、出土遺物のなかで最も多く出土している。また、中世の土器は68.6%を占め、近世の土器は11.1%にとどまるという。概ね今回の調査結果と同様の様相を示しているといえる。

石器に関しては、今回2点の出土にとどまった。前回調査では165点の石器及び石製品が出土しており、石器類は調査区北側に集中し、前回調査区の東側に網文の集落が存在する可能性がある。

第11表 グリッド別出土点数

2 確認遺構と旧地籍について

調査区周辺の地割り状況については、前回調査時に明治時代の地籍図を都市計画図に重ね合わせた地図を作成している(第24図)。第24図によると、大きな区画は現代においても概ね踏襲されていることが読み取れる。

今回の調査区周辺について、第24図を拡大して遺構全体図を組み合わせた(第25図)。

北区では、地山面の段差と地境が一致している。このことから明治期には地形に合わせて区画されていたと考えられる。地籍図以降に盛土により耕地が拡張され、地境も変わったものと思われる。

また、南区の溝跡(S D17~19)は全体の規模が不明であり根拠は乏しいが、S D19が明治の地籍図の地境と重なることから(第25図)、屋敷地などを区画する溝である可能性がある。S D17、18はS D19を掘り直した可能性がある。S D17~19と前回調査で確認している屋敷の区画溝(S D12)はほぼ同時期と考えられる。こちらは対応する地境は確認できない。

3 深渡A地点遺跡の位置付け

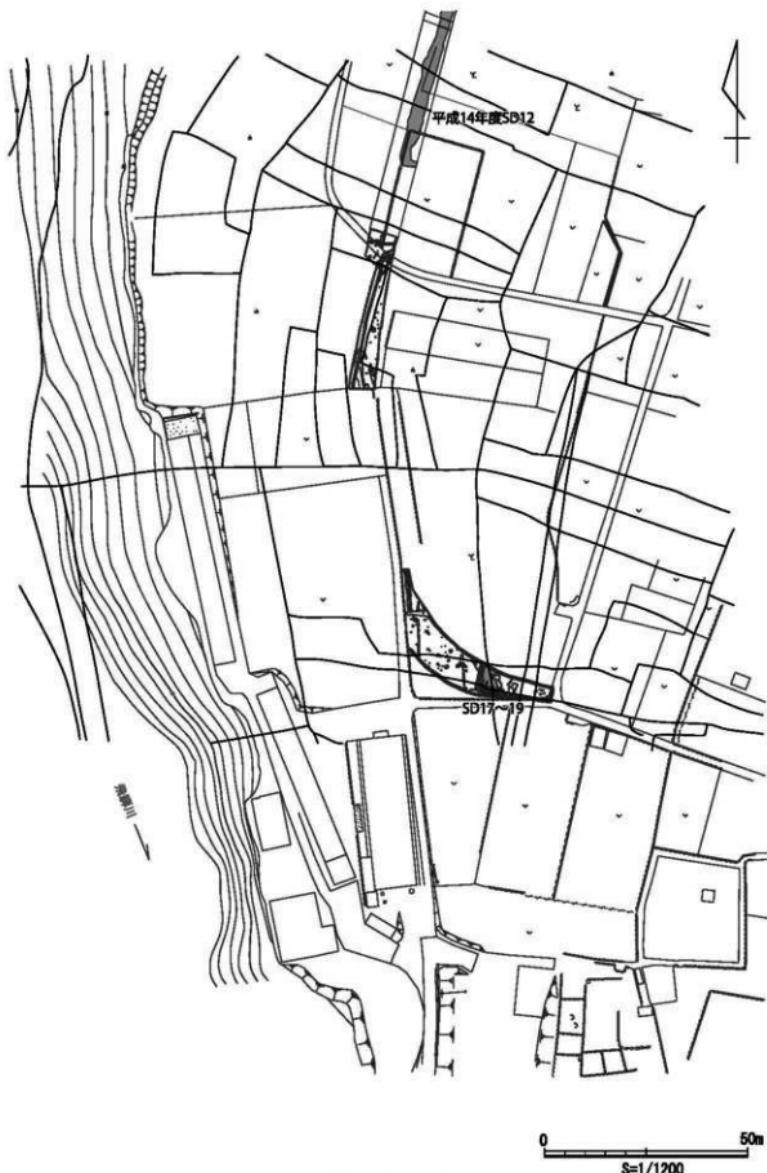
過去2度の調査において、深渡A地点遺跡は繩文から近世までの幅広い時代に営々と営まれた遺跡であると考えられる。の中でも、特に中世の遺構・遺物が多数を占め、遺跡の主体をなす。

深渡A地点遺跡は、中世において居住域として人々の生活の場であった。その後、近世にはいると出土遺物数が減少することから、居住域から畑作などを行う耕作地に変わったものと考えられる。



第24図 調査地周辺の地割り状況

(財)岐阜県教育文化財団文化財保護センター2004より作成、「美濃加茂市都市計画図(1/2,500)」を縮小して使用)



第25図 調査区付近の地割り状況

参考文献

- 愛知県史編さん委員会2007『愛知県史 別編 築業2 中世・近世 濑戸系』
可児市教育委員会1999『前波の三ツ塚』(可児市埋文調査報告34)
(財)岐阜県文化財保護センター1994『尾崎遺跡』
(財)岐阜県文化財保護センター2000『野笠遺跡』
(財)岐阜県文化財保護センター2001『針田遺跡・東坪之内遺跡・田中裏遺跡』
(財)岐阜県文化財保護センター2001『佐口遺跡』
(財)岐阜県文化財保護センター2002『富田清友遺跡』
(財)岐阜県文化財保護センター2002『野笠遺跡II・赤池4号古墳』
(財)岐阜県教育文化財団文化財保護センター2004『野笠遺跡III』
(財)岐阜県教育文化財団文化財保護センター2004『深渡A地点遺跡』
田口昭二1983『美濃焼』(考古学ライブラリー17)、ニュー・サイエンス社
美濃加茂市編1980『美濃加茂市史通史編』
美濃加茂市教育委員会編1994『大地の生いたち美濃加茂』(美濃加茂ふるさとファイルNo.5)
美濃加茂市教育委員会編1995『市民のための美濃加茂の歴史』
美濃加茂市民ミュージアム2002『発掘された尾崎遺跡展』
山内伸浩2008「東濃地域における灰釉陶器・山茶碗生産の一様相」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知大会実行委員会



北区全景（西から）



南区全景（西から）

図版2



北区調査前風景（北から）



南区調査前風景（東から）



SD 4 磁器状況（北東から）



SD 4 山茶碗出土状況（北から）



SD 4 磁器状況（北東から）



SD 2（西から）



SD 9（右側、北西から）



SK 35（南から）



SD17・18・19(東から)



SD17・18・19(北から)



SD17・18・19(南から)



SD17・18検出状況(東から)



SD17・18・19埋土断面(西から)

図版4



SK91(東から)



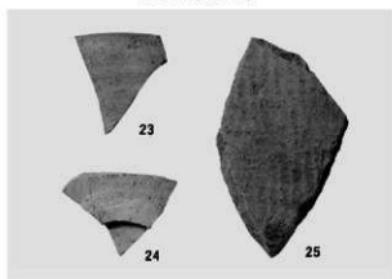
SK66(右側、南から)



SI1(西から)



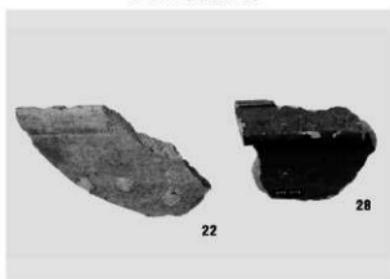
SI2(南東から)



23

24

25



22

28



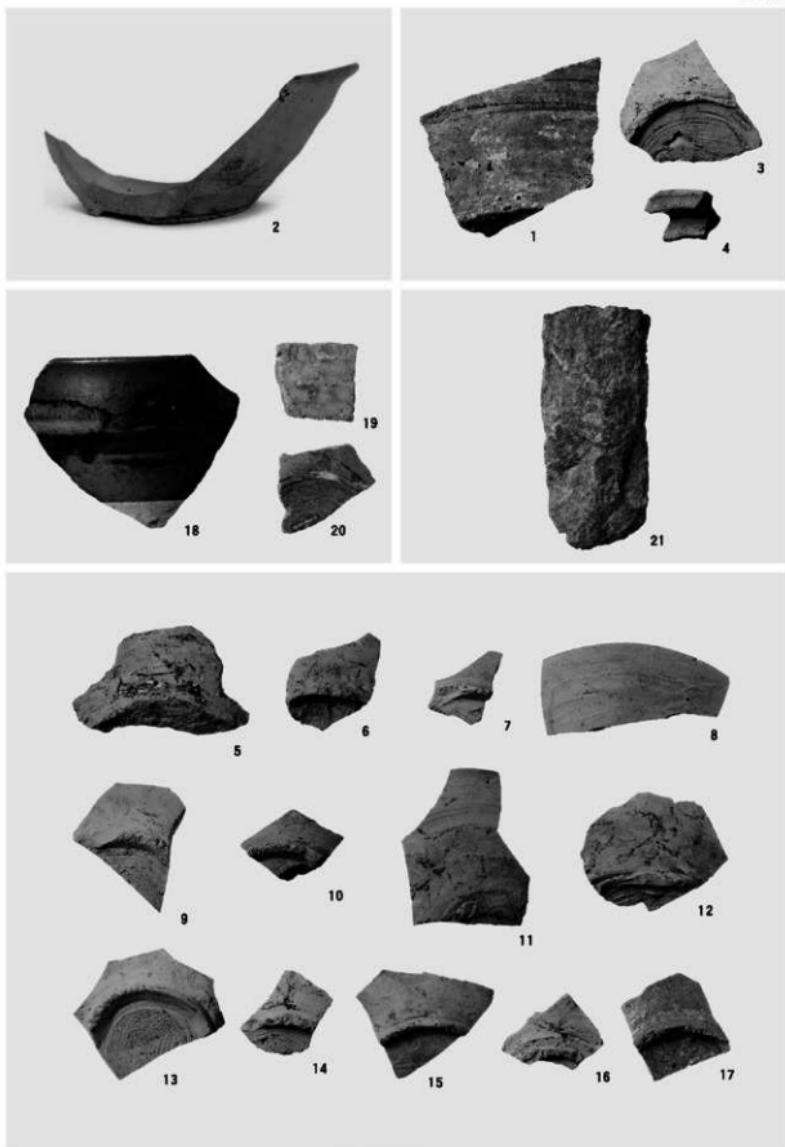
26

27

南区出土遺物



29



北区出土遗物

報告書抄録

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第118集

深渡 A 地点遺跡Ⅱ

2011年3月18日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 有限会社 もとすいんさつ